

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

法政大學講義錄

山崎, 覚次郎 / 田中, 遼 / 秋山, 雅之介 / 塚田, 達二郎 /
横田, 秀雄

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

1-27

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

54

(発行年 / Year)

1904-07-01

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14

(明治三十六年十月十二日第三種郵便物認可
毎月十四日三百五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行)

三十七年度

明治三十七年七月一日發行

第一學年ノ二十七

法政大學講義錄

第八十九號

法政大學發行



第一學年第二十七號目次

民法物權

自第一章(自一三三)至第六章(至三六)

法學士塚田達二郎

民法債權

第一章第四節(自二九)及ヒ第五節(至五二)

法學士横田秀雄

國際公法(戰時)

(自三三)至三四四

法學士秋山雅之介

經濟學

(自二五二)至二七二(完)

法學士山崎覺次郎

羅馬法

(自二三〇)至二三〇五

田中遙

雜報

○競賣ニ因リテ裁判所カ受領シタル金錢ニ對スル請求權○外國ニ於ラノミ流通スル貨幣及ヒ證券ニ關スル緊急勅令

(正誤

國際公法(平時)一九六二二行(第二)ノ下「第三」ヲ就シ且ハ介ノ誤)

090
1904
1-1-27

第一款 共有者ノ相互ノ権利義務

一、各共有者ハ其持分ニ應シテ共有物ノ全部ヲ使用スル權利ヲ有ス
共有者ハ其持分カ如何ニ少クトモ共有物ノ全部ヲ使用スル權利ヲ有ス
元來共有物ナルカ故ニ己レ一人カ其使用ヲ獨占スルコトヲ許ナス故ニ其使用ニ付キ相互ニ争ヲ生シ易キ虞アルカ故ニ法律ハ其使用ノ割合ハ各自ノ持分ニ應スヘキモノナリトセリ尤モ共有物ノ使用方法ニ付キ共有者ノ協議ニ依リ或ハ使用ノ期間ヲ制限シ或ハ度數ヲ定メ其他ノ使用方法ニ付テ適宜ノ規定ヲ設ケタル場合ニハ其規定ニ從ハサルヘカラサルハ論ヲ俟タス例ヘハ甲乙二人カ出資シテ或製糸機械ヲ買入レ之ヲ使用スル場合ニ其持分ノ割合二ト一トノ比

例アルトキハ或一人ハ二日間之ヲ使用スル場合ニ他ノ一人ハ一日間之カ使用ヲ爲スヲ以テ満足セサルヘカラサルカ如キ是ナリ而シテ共有者ノ持分ハ多々ハ共有ヲ生スルニ當リテ有スル權利ノ割合ニ應シテ之ヲ定ムルヲ通例トス若シ其權利ノ割合カ明カナラサル場合ニハ各共有者ノ持分ハ平等ナリト推定セラルモノナリ(第二四九條、第二五〇條)

二 各共有者ハ其持分ニ應シテ共有物ヨリ生シタル果實ノ分割ヲ請求スルコトヲ得其發起人議同ニ定ム(ナリ)此種ノ全體ノ實現ハヨリモ機知其體天然ノ果實カ共有物ヨリ分離シタルトキハ其物ハ共有ノ目的ト爲レルカ故ニ共有者ハ何時ニテモ其分割ヲ請求スルコトヲ得例ヘハ甲乙平等ノ持分ヲ以テ或田地ヲ共有シ其田地ヨリ若干ノ收穫ヲ得タルトキハ其收穫物ハ甲乙均等ニ其物ノ分割ヲ請求シ得ルカ如キ是ナリ又其物カ分割シ得ヘカラサル物例ヘハ家畜等ナルトキハ之ヲ賣却シテ其賣却代金ノ分配ヲ受クル權利アルカ如キ又法定ノ果實ニ付テモ理論ニ於テハ異ナル所ナシ但會社又ハ組合契約等ニ因リ共有物ヨリ生スル果實ヲ處分スル方法ニ付キ特ニ契約アリタルトキニハ其契

約ニ從フヘキハ勿論ナリ

三 各共有者ハ其持分ヲ處分スルコトヲ得

共有者カ其持分ヲ自由ニ處分スルコトヲ得ルハ各國ノ立法例ノ認ムル所ナリ舊民法ニハ共有者ノ一人カ其持分ヲ讓渡シタルトキハ讓受人ハ他ノ共有者ニ對シ讓渡人ニ代リ其地位ヲ有スルモノトシテ持分ノ處分ニ關スル原則ヲ明カニセリ現行法ハ共有者ノ持分ノ處分ニ付テハ法律又ハ契約ニ由リ禁セラレナル限ハ自由ニ爲シ得ヘキモノナリト認メタルカ故ニ明文ヲ以テ其讓渡シ得ヘキコトヲ示サヌシテ共有者ノ一人カ共有物ニ付キ讓渡人ニ對シテ有スル債權ハ其發生當時何等ノ關係ヲ有セサル第三者即チ特定ノ讓受人ニ對シテモ行使スルコトヲ得ヘキコトヲ規定セルヲ見ルモ明カナリ(第二五四條獨逸法ニテハ共有者ノ一人カ其持分ヲ讓渡サントスル場合ニハ他ノ共有者ハ第三者ニ先チ之ヲ買取ルノ權利アリトセリ即チ共有者ニ共有物ニ對スル持分ノ先買權ヲ認タルモノニシテ成ルヘク共有ヲ減セントスル法律ノ趣意ニシテ立法論トシテハ適當ノ規定ナリト信ス

四 共有者ハ共有物ニ對シテ保存行爲ヲ爲スコトヲ得

保存行爲ハ物ノ現狀ヲ維持スルニ缺クヘカラサル行爲ニシテ其行爲ハ各共有者ニ利益ヲ與フルコトアルモ之カ爲スニ損害ヲ加フヘキ處ナシトス故ニ何レノ立法例ニ於テモ各共有者カ専斷ニテ其行爲ヲ爲スコトヲ認ムルハ當然ナリ即チ保存行爲ニ依リ物ノ事實上ノ滅失、毀損ヲ豫防シ又ハ權利ノ侵害、消滅ヲ防衛スルモノナリ例へハ器械ヲ修繕シ家畜ニ食料ヲ與フルカ如キ又ハ第三者カ共有物ニ對スル權利主張ニ對シテ之ニ妨訴スルカ如キ若クハ其權利ノ消滅ヲ防クカ爲メニ保存登記ヲ爲スカ如キ是ナリ而シテ此等保存ノ行爲ハ之ヲ遂行スルニ費用ヲ要スヘキモノナルカ故ニ其費用ハ其行爲ヲ爲シタル者ニ於テノミ負擔スヘキモノニ非シテ之ニ因リテ利益ヲ共有セル各共有者カ其持分ニ應シテ分擔セサルヘカラサルナリ若シ一箇年間ニ共有者カ此費用ヲ支拂ハサルトキハ他人ノ共有者ハ其物ノ持分ニ相當スル資金ヲ拂ヒテ其持分ヲ取得シ其有者ノ地位ヲ失ハシムルコトヲ得ヘシ

五 共有者ハ他人ノ共有者カ其持分ヲ拋棄シ若クハ承繼人ナクシテ死亡シタル

又ハ原因ナクシテ給付ヲ爲シ又ハ債務ヲ負擔スルノ已ムヲ得サルニ至リ損失ヲ被ルノ結果ヲ生スヘキ賭易キノ道理ナリ而シテ其後ニ至レルハ全ク債権者カ自己ノ有セサル權利ヲ他人ニ譲渡シタルヨリ生スル結果ナレハ之カ爲スニ債務者ノ被リタル損害非不當利得又ハ不法行爲ニ關スル原則ニ從ヒ舊債権者ヨリ其債還ヲ受タルノ權利ヲ有スルモノナリ例へハ債務者カ舊債権者ニ對シ其債務ノ全部又ノ一部ヲ辨済シタル場合ニハ辨済シテ給付シタルモノノ返還ヲ舊債権者ニ求ムルコトヲ得ヘタ更改ニ因リ新ニ債務ヲ負擔シ舊債務ノ全部又ノ一部ヲ消滅セシムタルトキハ其新ニ負擔シタル債務ヲ成立セサリシモノト看做ストヲ得ヘシ是則第四百六十八條第一項但書ニ規定スル所ナリシテ同條ニハ成立セサリ必也ノト看做ストアリヲ以テ其債務ノ不成立ヲ主張スルト否ノ時債務者ノ自由ニ因テ債務者カ之ヲ維持スルヲ有益ナリト認ムル時キハ其債務者存立セシメ他方ニ於テ救濟ヲ求ムルコトヲ得ベシ例へハ新債権者ニ給付シタルモノヲ舊債権者ヨリ債還セシムルカ如

民法ハ舊債権者ニ對シテ給付ヲ爲シタル場合ト新債務ヲ負擔シタル場合トニ付キ特ニ規定ヲ設ケ其他ノ場合ニ付テハ一言セリスト雖モ右二箇ノ場合ノ外ニハ何等ノ救濟ヲ許ササルノ趣旨ニ非ヌシテ其救濟方法ノ如何ハ一般ノ原則ノ適用ニ一任シタルモノト解釋ササルヘカラス例ヘハ債務者カ既ニ相殺ニ因リテ債務ヲ免レタルトキハ債務者カ新債権者ニ對シテ其債務ヲ履行セタルヘカラサルニ至リタルノ結果舊債権者ニ對スル債務者ノ債権ハ復活スルコトト爲ルヘク債務關係カ成立セザンシモノナルトキハ債務者ハ新債権者ニ給付シタルモノノ借還ヲ舊債権者ニ請求スルヨトヲ得ルカ如シ第五節債務者ハ債権譲渡行爲ノ無効ヲ以テ讓受人ニ對抗スルヨトヲ得
債務者カ讓受人ニ對シテ義務ヲ負擔スルニハ有效ナル讓渡行爲ノ結果債権カ舊債権者ヨリ讓受人ニ移轉シタルコトヲ前提要件トスルヲ以テ讓渡行爲カ無效ナルトキハ債務者ハ讓受人ニ對シテ債務ヲ履行スルノ責ナク又讓受人ニ對スル履行ニ依リ債務ヲ免脱シ得ヘカラツルヤ明カナリ讓渡行爲カ取消サレタル場合亦同シ

右ノ外讓渡人ト讓受人トノ間ノ權利關係ニ付テハ債権ノ讓渡カ有償ナルト無償ナルトニ從ヒ賣買又ハ贈與ノ原則ヲ適用シテ之ヲ定ムヘク特ニ之ヲ詳論スルノ必要ナシ茲ニ一言スヘキハ債権譲渡ノ場合ニ於テハ讓受人ハ債権譲渡ヨリ生スル義務トシテ其現ニ占有スル所ノ債権證書ヲ讓受人ニ移轉スルコトヲ要スルコト是ナリ獨逸民法ニハ此點ニ付キ特別規定アリ我民法ニハ之ヲ缺クト雖モ債権譲渡ノ性質上此ノ如ク解釋スルヲ相當ナリトス
證明スルノ具トシテ其效用ヲ爲スモノニ非ヌシテ證書ト債権トハ互ニ相密蓋

第三節 指圖債権ノ譲渡

指圖債権トハ證書アル債権ニシテ證書面ニ指定セラレタル債権者又ハ其債権者ノ指定シタル人ニ辨済スヘキモノヲ謂フ例ヘハ約束手形倉荷證券ノ如シ而シテ右ノ定義ニ依ルトキハ指圖債権ハ左ノ性質ヲ有スモノナリ
第一指圖債権ハ證書ノ作成ニ必要トスル債権ナリ書立證書大シニ乗せテハ指圖債権ニ在リテハ證書ハ普通ノ場合ニ於ケルカ如ク單ニ其證書面ノ債権ヲ證明スルノ具トシテ其效用ヲ爲スモノニ非ヌシテ證書ト債権トハ互ニ相密蓋

シテ分離スヘカラサル關係ヲ有シ債權證書ノ右在の債權ノ成立有無ノ必要備
件タルノミナラス其債權ノ實質モ亦證書ノ記載ニ依リテ定セル者ナリ是レ
證書債權ノ名稱アル所以ニシテ此種ノ債權ハ債權證書ヲ所持スルニ非サレハ
之ヲ主張スルコトヲ得ナルモノトス蓋シ證書ノ流通ニ安全ニ且迅速ナラシム
ルノ必要ニ出タルモノナリチニシテ又謂之證書債權者ナリ

第二節 指圖債權ハ證書面ニ指定シタル債權者又ハ其債權者ノ指定シタル人即
チ指圖人ニ辨濟スヘキ債權ナリ

書ノ名アル所以ニシテ此ノ如ク債権ヲ指圖式ト爲シ債務者ニ對スル通知又ハ其承諾ヲ要セシテ單ニ裏書ノ方法ニ依リ容易ニ之ヲ移轉スルコトヲ許スハ全タ經濟上ノ理由ニ基クモノニシテ財產取引人漸々頻繁ト爲ルニ隨ヒ可及的財產融通ノ便宜ヲ與ヘ財產ノ流通ヲ容易ニ且迅速ナラシムルハ一國繁榮ノ基礎ヲ爲ス財產取引ノ敏活ヲ助長スルカ爲メニ極メテ必要ナルフ以テナリ但指圖ノ方法ニ付テハ法律ニ特別規定ナシト雖モ左ニ掲タルモノヲ以テ普通ニ行ハルル方式トスニ就キイニヤハ當事者ニ意思表示ニニ因ベ其效モ主ス

右年月日貴殿又ハ貴殿ノ指圖人ニ支拂又ハ引渡可申候也六四
賁又ハ其指圖人ニ支拂フヘキ旨ノ意思ヲ表示シタルトキハ其債權ハ指圖債權ト爲ルコトアリ甲乙ヨリ金百圓ヲ借用シ

ト爲ルカ如シ其他當事者ハ任意ニ債権ヲ指圖式ト爲スコトヲ得ルアリ爲替手形、約束手形、小切手、倉庫業者ノ發行スル預證書及ヒ質入證券ハ其根源ニ於テ記名式ナル場合ト雖モ尙ホ裏書ニ依リテ之ヲ譲渡スルコトヲ得ヘタ法律上當然指圖債権タルノ性質ヲ有スルモノトス(商法第四五五條、第五二九條、第五三七條、第三六四條)

第一款 指圖債権譲渡ノ要件

指圖債権ノ譲渡ハ原則トシテハ當事者ノ意思表示ノミニ因リテ其效ヲ生スルコト指名債権譲渡ノ場合ト毫モ異ナル所ナシ故ニ譲渡人ハ譲渡ト共ニ債権關係ヲ離脱シ其債権ハ譲受人ニ歸屬スヘキハ論ヲ矣タス是レ裏書ヲ以テ債権譲渡ノ必要條件トスル商法上ノ指圖債権ト異ナル所ナリ
右ノ如ク指圖債権ハ當事者ノ意思表示ニ因リテ其效ヲ生スルヲ原則トスルモ第三者トノ關係ニ於テハ當事者ノ意思表示ノミニテハ債権ノ譲渡ハ絶對的ニ其效ヲ生セサルコト指名債権譲渡ノ場合ト異ナル所ナシ是レ第三者ノ利益ヲ

保證シ取引ノ安全ヲ保ツカ爲メニ必要ナルヲ以テナリ然レトモ他方ニ於テ指圖債権ハ素ト融通人便利ノ爲メニ創設スルモノナレハ譲渡ノ手續モ亦簡便ナルコトヲ要シ指名債権ニ於ケルカ如ク債務者ニ對シテ通知ヲ爲シ又ハ其承諾ヲ得ルカ如キ煩雜迂遠ナル手續ヲ爲サシムベキモノニ非ス而シテ我民法ニ依ルトキハ第三者ヲシテ債権ノ移轉ヲ否認スルコト能ハサラシメ因リテ以テ其債権譲渡フシテ完全ニ其效力ヲ生センムルニハ二箇ノ要件ハ具備スルコトヲ必要トス即チ左ノ如シ
第一 裏書 指圖債権ハ證書ニ指定シタル債権者又ハ其債権者ノ指圖シタル人ニ辨済スヘキモノニシテ其被指圖人ノ何人タルヤハ證書面ニ之ヲ記載セナルヘカラス隨テ指圖債権ノ移轉ハ裏書ニ依リテ之ヲ明確ナラシムルコトヲ要スルハ前既ニ説明シタル所ナリ果シテ然ラハ譲渡ノ當事者間ニ於テ譲渡ノ契約成立スルモ債權證書ニ裏書ヲ爲サルニ於テハ債務者其他ハ果シテ其債権ノ譲渡アリタルヤ否ヤヲ確認スルコト能ハナルヲ以テ其譲渡ヲ否認スルコトヲ得ベキハ理ノ當然ナリ是レ法律カ裏書ヲ以テ債権譲渡ヲ第三者ニ

民法第四百六十九條ニ所謂裏書トハ債權譲渡ノ意思表示ヲ證書面ニ記載スル
ニ謂フ蓋シ此記載ハ證書ノ裏面ニ於テ之ヲ爲スヲ普通ト爲セルヲ以テ裏書ナル名稱ヲ用ヒタレドモ證書ノ何れノ部分ニ於テ之ヲ爲スモ毫モ不可ナシ又譲渡ノ意思表示トシテハ證書面ノ債權者タル讓渡人カ證書面ノ債權ヲ特定ノ人ニ譲渡シタル旨ヲ記載スルコトヲ必要トスルト同時ニ此記載アルノミヲ以テ足レリシ其意思表示ノ形式如何ハ之ヲ問フノ必要ナシ何トナレハ民法ハ別ニ裏書ノ方法ヲ限定セサリシヲ以テナリ但商法ニハ特ニ其方式ノ定アリテ約束手形其他商事ハ指圖債權ニ關シテハ商法第四百五十七條ノ規定ニ從ヒ債權證書ニ譲渡ノ意思ヲ表示シタル文言ト被裏書人ノ氏名又ハ商號及ヒ裏書ノ年月日ヲ記載シ裏書人ニ署名捺印スルコトヲ要スニ集会の種々を齊備せし時
右ノ如ク民事上ノ指圖債權ニ付テハ別ニ裏書ノ方式ハ定ナシト雖モ普通ノ文例ハ大要左ノ如キモナリ

何人タムカム常ニ證書面上ニ於テ之ヲ明確ナラシムルコトヲ必要トスルハ指圖債權其モ乃人性質ニ於テ自ラ然キアルヲ得ナルヲ以テナリ示文既モ且其再第二種交付六指圖債權ノ讓渡カ第三者ニ對シテ絕對的ニ其效ヲ生スルニハ證書面ニ其裏書ヲ爲シタルノミヲ以テ足レリトセス裏書ヲ爲シタル證書ヲ讓渡人ヨリ讓受人ニ交付スルコトヲ必要トス是レ他ナシ指圖債權ハ證書債權ナルヲ以テ債權ト證書トハ分離スヘカラナル關係ヲ有スルヲ以テ其證書ノ占有ハ債權ノ所在ヲ確認スヘキ標準タルコト猶ホ動產ノ占有カ其動產ニ關スル權利ノ所在ヲ認識スルノ標準タルト毫モ異ナル所ナク隨テ證書ノ交付ハ裏書ト相埃及テ第三者ヲシテ權利ノ移轉ヲ認知セシムルカ爲メニ必要ニシテ缺クヘカラナルモノナルコトハ敢テ辨ア候タツルヲ以テナリ

指圖債權ハ流通債權ニシテ證書ノ交付ニ因リ其效ヲ生スルコトハ無記名債權ト異ナル所ナシト雖モ其證書ニ裏書ヲ爲スコトヲ要スルノ點ニ於テハ無記名債權ト異ナルヲ以テ其流通的性質ハ遙ニ後者ニ劣リ證書ノ交付ノミニ因リテ權利ヲ移轉スルコトヲ得ス隨テ無記名債權ノ如ク全然動產ト同視スルコトヲ

得ス
本章ノ題目は總論及各項別置事項也此處に於て皆未だ其題目未入賞人通説
及本文末尾ノ題目も即ち指圖債權ノ是不二選る也指圖債權ハ總務部會書類及
裏書大半成る
第一款 指圖債權譲渡ノ效力
指圖債權ハ一ノ債權ナルノ點ニ於テハ指名債權ト毫モ異ナル所ナキヲ以テ其
讓渡モ亦指名債權讓渡ノ場合ト等シク讓渡人ノ有セシ權利ヲ讓受人ニ移轉ス
ルモノニ外ナラナルハ論ヲ俟タツル所ナレトモ此二者間ニハ重要ナル差異ア
リ他ナシ前者ニ在リテハ權利ノ存在内容範圍ハ一二實體的权利關係ニ基キ之
ヲ定ムルコトヲ要スルニ反シ後者ニ在リテハ當事者間ノ實體的权利關係如何
ニ拘ハラス債權證書ヲ以テ權利ノ存在内容範圍ヲ定ムヘキ標準ハ爲スコトヲ
要スルニ在リ此差異ハ融通ヲ主眼トスル指圖債權ノ性質ヨリ生スルコトハ前
既ニ説明スル所ニ依リテ明カナリ今指圖債權讓渡ノ效力ノ尤モ重要ナルモノ
ヲ舉クルトキハ左ノ如シ明ル是事又非セラム也斯くて證書既ニ署名捺印其上
第一義指圖債權ノ債務者ハ其證書ノ所持人及セ其署名捺印ノ眞偽ヲ調査スル
ノ權利ヲ有スルモ其義務ヲ負フヨトナシ

是レ第四百七十九條前段ニ規定スル所ナリ蓋シ理論上ヨリ言フトキハ指圖債権ノ譲渡ハ真正ナル權利者ノ意思ニ基テコトヲ要スルヲ以テ證書面ニ譲渡人ノ署名捺印アルモ其署名捺印カ真正ノモノニ非ナルトキハ債権譲渡ノ要件具備セサルニ由リ被裏書人ニ於テ證書面ノ債権ヲ取得スルコト能ヘナルハミナラス指圖債権ノ移轉ニハ裏書ヲ必要トスルヲ以テ縱令債権證書ヲ所持スルモ證書ニ指定シタル被裏書人ニ非ナル限ハ其債権ヲ行使シ得ヘキニ非ナルハ多言テ要セスシテ明カナリ故ニ債務者カ此等真正ノ債権ヲ取得シタルモノニ非ナル被裏書人又ハ所持人ニ辨済ヲ爲シタルトキハ其辨済ハ何等ノ效ヲ有セヌ隨テ真正ナル權利者ヨリノ請求ニ對シ辨済ヲ爲ササルヘカラサルハ敢テ論ヲ俟タル所ナリ然ルニ實際ニ於テハ債務者ハ證書ノ署名捺印ハ真正ノ權利者ノ署名捺印ナルヤ否ヤ又證書ノ所持人カ果シテ其證書ニ指定セラレタル最後ノ被裏書人ナルヤ否ヤヲ確知セサルノミナラス確知スルコト能ハサル場合往往ニシテ之アルヲ以テ債権證書ノ呈示ニ對シテ債務者ノ爲シタル辨済カ證書ノ裏書ノ爲メニ爲シタル署名捺印ノ真正ナラサル爲メ若クハ其所持人ノ真ノ權利

者ニ非ナル爲メ無效ト爲ルノ結果ヲ來スモノトセハ債務者ハ證書所持人ヨリ辨済ノ爲メ證書ノ提示ヲ受ケタルトキハ其都度證書ノ所持人及ヒ其署名捺印ノ真爲ヲ調査シ所持人ノ真ノ權利者タルコトヲ確認シタル上ニ非サレハ債務ノ辨済ヲ爲ササルベク是ニ於テ指圖債権ハ容易ニ且迅速ニ辨済ヲ受タルコト能ハサルニ至リ實際上極メテ不便ナルカ故ニ何人モ之ヲ讓受クルコトヲ欲セサルニ至ルヘタ是ニ於テ法律カ債権ヲ指圖式ト爲シ其移轉ヲ容易ナラシメテ取引ノ敏活ヲ期スル所以ノ目的ト全然背馳スルノ結果ヲ生スルヤ明カナリ是レ法律カ債務者ノ爲メニ所持人並ニ其署名捺印ヲ調査スルノ義務ヲ免除シ債務者ノ爲メニ證書ノ所持人並ニ其署名捺印ノ真爲ヲ調査スルノ義務ヲ免除シ其結果真正ノ債権者ニ非ナル者ニ爲シタル債務者ノ辨済ヲ有效トスル債権人所在如何ニ拘ハラス證書ノ所持人ニ辨済ヲ爲スノ義務ヲ債務者ニ負ムシムル

ニハ非ス債務者カ善意ニテ辨済ヲ爲シタルトキハ其辨済ヲ有效トシ善意ノ債務者ノ利益ヲ保護スルヲ以テ唯一ノ目的ト爲スモノニ外ナラスシテ債務者ハ如何ナル場合ニ於テモ真正ノ権利者ニ非サル所持人ニ對シテ辨済ヲ爲スノ義務ナキモノナレハ證書ノ所持人及ヒ其署名捺印ヲ調査シ其所持人ノ真正ナル権利者ナルコトヲ確認シタル上辨済ヲ爲スヘ固ヨリ債務者ノ權内ニ屬シ證書ノ所持人ハ單ニ證書ノ呈示ニ對シテノミ債権ノ辨済ヲ爲スヘキコトヲ債務者ニ強要スルコトヲ得ス是レ民法カ其證書ノ所持人及ヒ其署名捺印ノ真偽ヲ調査スルノ権利ヲ有スルモ其義務ヲ負フコトナシト規定セル所以ナリ故ニ債務者カ調査ノ結果所持人ノ真正ナル権利者ニ非サルコトヲ發見シタルトキハ其辨済ヲ拒ムハ毫モ妨ナキノミナラス所持人カ偶真正ナル権利者ナリシ場合ト雖モ苟ニ調査上必要ナル以上ハ辨済ノ遲延ニ對シ責任ヲ負フコトナシトス右ノ如ク法律カ本來無効ナルヘキ債務者ノ辨済ヲ有效トシ債務者フシテ二重辨済ヨリ生スル損害ヲ免ルコトヲ得セシムルハ善意ノ債務者ヲ保護シ因リテ以テ取引ヲ安全ニ且敏活ナラシムルヲ以テ目的トスルコトベ前述ノ如クナ

ルヲ以テ債務者カ惡意ナルトキ即天證書ノ署名捺印カ真正ノモノニ非スシテ證書ノ所持人カ真正ノ権利者ニ非サルコトヲ知リタルトキハ其辨済ハ無効エシテ真正ナル権利者ノ請求ニ依リニ重ニ辨済ヲ爲ササルヘカラサルコトハ其當ニ豫期スヘキ所ニシテ其辨済ヲ無効ト爲スモ之カ爲メ債務者フシテ不測ノ損害ヲ被ラシムモノニ非ス隨テ取引ノ安全ハ之カ爲メ毫モ害セラルコトナキヲ以テ特ニ之ヲ保護スルノ必要カシ又債務者ハ實際善意ナルモ所持人ノ真正ノ権利者ニ非サルコトハ債務者ニ於テ些少ノ注意ヲ拂フニ於テハ知リ得ヘカリシニモ拘ハラス此注意ヲ缺キタルカ爲メ所持人ノ真正ノ権利者ニ非サルコトヲ發見スルコトヲ得シテ辨済ヲ爲シタルトキ即チ債務者ニ重大ノ過失アルトキハ其結果ハ過失イ責アル債務者ニ於テノ甘受スルヲ相當トシ真正ナル権利者ヲシテ之ヲ負擔セシムルヲ得ス何トカレハ債務者ヲシテ少クトモ重大ナル過失ニ該當スヘキ不注意ヲ戒ムルノ責ヲ負ハシムルモ之カ爲メ毫モ取引ノ安全ヲ害スルモノニ非サルヲ以テナリ例へハ裏書ノ連續セサルコトカ證書面上明白ナルニ拘ハラス其調査ヲ怠リテ所持人ニ辨済ヲ爲シ又ハ彼裏

書人カ雇人ヲシテ債権ノ取立ヲ爲サシメ來リタル場合ニ債務者カ被裏書人ヨ
ヲ其雇人ヲ解雇シタル旨ノ通知ヲ受ケ居ルニモ拘ハラヌ輕忽ニ其雇人ニ辨済
ヲ爲シタルカ如キ場合ニハ債務者ニ重過失アルコト明カナリ
第二、指圖債権ノ債務者ハ其證書ニ記載シタル事項及ヒ其證書ノ性質ヨリ當
然生スル結果ヲ除ク外原債権者ニ對抗スルコトヲ得ベカリシ事由ヲ以テ善
意ノ譲受人ニ對抗スルコトヲ得スル也
是レ指圖債権其モノノ性質ヨリ生スル結果ナリ蓋シ指圖債権ニ在リテハ第三
者ハ其證書ノ記載ニ信ヲ置キ取引ヲ爲スモナレハ其記載事項ニ絶對的信憑
力ヲ付スルニ依リテ其取引ハ安全且迅速ニ行ハルモノナリ何トナレハ斯ク
スルニ於テハ第三者ハ證書ノ記載ニ信頼シ得ヘキカ故ニ債権ノ譲渡ハ其證書
ノ裏書交付ニ依リ容易ニ行ヘリ法律カ指圖式債権ノ創設ニ依リテ期圖シタル
財產融通ノ目的ヲ達スルコトヲ得ヘタレハカリ若シ夫レ指圖債権ノ譲受人ハ
指名債権譲渡ノ場合ト等シク譲受人ト債務者トノ間ニ生シタル對抗事由ハ其
何タルヲ問ハス總テ對抗セラレ得ルモノトセシガ第三者ハ後ニ至リ其毫モ知
何タルヲ問ハス總テ對抗セラレ得ルモノトセシガ第三者ハ後ニ至リ其毫モ知

ラナル抗辯ノ事由ヲ對抗セラレ意外ノ損失ヲ被ルノ虞レアルヲ以テ先ツ以テ
斯ル對抗事由ナキニトヲ確認シタル上ニ非ナレハ之ヲ讓受クルコトナカルヘ
ク之カ爲メ指圖債権ノ流通ヲ阻礙スルニ至ルヘシ是レ民法カ債権證書ヲ信シ
テ取引シタル第三者ヲ保護シ其正當ニ豫期シタル利益ヲ受クルコトヲ得セシ
ムル所以ニシテ原債権者ニ對スル抗辯ノ事由ハ其何タルヲ論セス總テ之ヲ新
債権者ニ對抗スヘシトスル指名債権譲渡ノ場合ト大ニ其效果ヲ異ニスル所ナ
リハ此種モ舉出スルカドセシ樹木を破滅シ又通商面ニ蒙ル事例ノ如キ者有
以上説明シタル所ニ從ヒ債務者カ原債権者ニ對シテ有セル抗辯ノ事由ヲ新債
権者ニ對抗シ得ルヤ否ヤノ問題ニ付テハ其抗辯ノ事由カ證書ニ記載シタル事
項及ヒ其證書ノ性質ヨリ當然生スル結果タダヤ否ヤノ區別スルコトヲ要ス即
テ左ノ如シタム又點滅人ノ事例モ猶御大本體味不應付モモシテ此處要アヌ事
第一、證書ノ記載並ニ其性質ニ基ク抗辯、指圖式ノ債権證書ニ記載シタル事
項並ニ其證書ノ性質ヨリ生スル結果ハ其取引ニ從事スル人ノ當ニ知ラナル
カラナル事ニ屬不故ニ此點ニ關スル抗辯ノ對抗ヲ受クヘキコトニ債権譲渡ノ

當時ニ讓受人ノ當然豫期未ヘキ所ナリ故ニ讓受人ニ對シテ之ヲ對抗シ得ヘン
トスルモ之カ爲メニ讓受人ニ於テ不測ノ損害ヲ被ルノ虞レナク隨テ債権流通
ノ移轉ハ毫モ阻礙セラルルトナキニ由リ一般ノ原則ヲ適用スルノミヲ以テ
足リ讓受人ヲシテ讓渡人ヨリモ優等ナル權利ヲ取得セシムル必要ナシ例へハ
債権カ期限附條件附ナルコト又ハ其反對給付ニ繫ルニトカ證書ノ記載ニ依リ
明白ナル場合ニ債務者カ其期限條件ノ到來セサルコトヲ理由トシテ讓受人ヨ
リノ即時履行ノ請求ヲ拒絶シ又ハ反對給付ト引替ナラテハ其請求ニ應セサル
旨ノ抗辯ヲ提出スルコトヲ得ルカ如シ又證書面ニ明示セラレサルモ證書ノ性
質ヨリ生スル抗辯ハ例へハ裏書カ連續ヲ缺クコト、讓受人トシテ辨済ノ請求ヲ
爲シタル者ハ證書面ニ記載アル被裏書人ニ非ナルコト又ハ證書ヲ所持セサル
コト、債務者カ倉庫業者ニシテ倉荷證券ヲ發行シタル場合ニ於テ倉貯料、租稅ノ
立替金ノ辨済ヲ受ケタル上ニ非サレハ其證券ニ掲クル米穀其他ノ寄託物返還
ノ請求ニ應セサルコト等ノ如シテ、
第二、其他ノ抗辯ノ事由、證書ノ記載又ハ其性質ヨリ生スル結果ヲ除キ其他

ノ抗辯ニ付テモ亦讓受人ニ對抗シ得ルヲ原則トスルハ債権移轉ノ性質上尙ニ
明白ナリト雖モ此原則ヲ絕對ニ適用スルニ於テハ前説明スル如ク證書ニ信ヲ
置キテ取引ヲ爲シタル第三者ヲシテ不測ノ損害ヲ被ラシメ證書ノ流通ヲ阻礙
スルヲ以テ善意ノ第三者ニ對シテハ此等抗辯ノ事由ハ總テ之ヲ對抗スルコト
能ハサルモノト爲シタルモノナリ然レトモ第三者カ債権讓受ノ當時此等抗辯
ノ事由ノ存在スルコトヲ知リナカラムノナルトキハ其對抗ヲ
受クヘキコトハ其當ニ豫期スヘキ所ナルヲ以テ之ヨリ生スル結果ハ第三者之
ヲ甘受セサルヘカラス是レ法律カ惡意ノ第三者トノ關係ニ於テハ一般ノ原則
ヲ適用シ其抗辯ノ事由如何ニ拘ハラス唯之ヲ對抗シ得ヘキモノト爲セル所以
ナリ是レ商法ノ指圖債権ト異ナル所ニシテ商法ハ其第四百四十條ニ於テ手形
ノ債務ハ本編ニ規定ナキ事由ヲ以テ手形上ノ請求ヲ爲ス者ニ對抗スルゴトヲ
得但直接ニ之ヲ對抗スルコトヲ得ヘキ事由ハ此限ニ在ラスト規定シ債務者ノ
抗辯權ヲ制限シタル所ナリ

第三節 無記名債権ノ譲渡

第一款 無記名債権ノ性質

無記名債権トハ證書アル債権ニシテ證書ノ所持人ニ對シテ辨済スヘキモノヲ謂フ例ヘハ無記名公債證書日本銀行兌換紙幣鐵道切符ノ如シ故ニ無記名債権ハ左ノ性質ヲ有スルモノナリ

第一 無記名債権ハ證書ノ作成ヲ必要トスル債権ナリ

無記名債権モ亦證書債権ニシテ債権ノ存在其範圍内容ハ一一證書ニ依リテ定マルコト指圖債権ト毫モ異ナル所ナシ但民事上ノ無記名債権ニ在リテハ證書面上ノ債権ノ範圍内容ハ證書ヲ信シテ取引ヲ爲シタル第三者トノ關係ニ於テノミ絶對的效力ヲ有スルモノニシテ當事者間及ヒ惡意ノ第三者ニ對シテハ證書ノ記載ニ依ラスシテ常ニ實體上ノ權利關係ニ依ルヘキモノトス

第二 無記名債権ハ證書ノ所持人ニ對シテ辨済ヲ爲スヘキ債権ナリ

無記名債権ハ債権者ヲ特定セス單ニ證書ノ所持人ニ對シテ辨済スヘキ債権ナリ

第二款 無記名債権譲渡ノ要件

リ是レ無記名債権ノ名稱アル所以ニシテ證書ノ所持人ハ當ニ其證書ト引替ニ其債権ノ辨済ヲ受クルコトヲ得ヘキカ故ニ債権ト證書トハ殆ト同一體ヲ成スノ觀アリ左レハ無記名債権ニ在リテハ權利ノ移轉ハ債権證書ノ交付ノミニ依リテ行ハレ債権證書ノ占有カ債権ノ所在ヲ認識スヘキ唯一ノ標準ト爲ルコトハ動產ニ於ケルト毫モ異ナル所ナシ是レ民法カ第八十六條ニ於テ無記名債権ハ動產ト看做スト規定シ動產ト同一ノ規定ニ從ハシムル所以ナリ而シテ無記名債権ハ單ニ債権證書ノ交付ノミニ因リテ行ハレ指圖債権ノ如ク裏書ノ手續ヲ必要トセサルヲ以テ其流通ハ指圖債権ニ比シテ一層便利ニシテ債権中ニ在リテ最高度ニ於テ融通的性質ヲ具備スルモノナルヤ明カナリ

説明ノ如シ是ニ於テ其得喪ニ關シテモ亦動產ニ關スル規定ヲ適用セサルヘカ

ラス即チ債權譲渡ハ第七百七十六條ノ原則ニ從ヒ其移轉ヲ目的トスル當事者間ノ意思表示ヲ以テ之ヲ爲シ且其意思表示ノミニテ權利移轉ノ效果ヲ生スルコトハ動產上ノ物權譲渡ノ場合ト毫モ異ナル所ナシ然レドモ其譲渡ヲ第三者ニ對抗スルニハ第百七十八條ノ規定ニ從ヒ債權證書ノ引渡ヲ必要トスル同時ニ此引渡アルノミヲ以テ足レリトシ指名債權ニ於ケルカ如ク敢テ債務者ニ對スル通知又ハ其承諾ヲ必要トスルコトナク又指圖債權ニ於ケルカ如ク裏書ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス就中民法第百九十二條以下ノ規定ハ無記名債權ニ付キ其適用ヲ見ルモノナリ即チ第一、平穩且公然ニ債權證書ヲ占有シタル者カ占有ノ初メ善意無過失ナルトキハ即時ニ其債權ヲ取得ス第二、債權證書カ盜品又ハ遺失品ナル場合ニ於テハ真正ナル債權者ハ二年間回復ノ請求權ヲ有ス第三、占有者カ公ノ市場競賣又ハ證券類ヲ賣買スル商人ヨリ善意ニテ之ヲ買受ケタルトキハ真正ナル權利者ハ其代價ヲ辨済スルニ非サレハ回復ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス是レ皆無記名債權カ動產同視セラルヨリ生スル效果ナリ

第三款 無記名債權ノ效果

民法第四百七十三條ハ「前條ノ規定ハ無記名債權ニ之ヲ準用ス」ト規定シ指圖債權譲渡ノ效果ヲ規定セル第百七十二條ヲ無記名債權ニ準用セルヲ以テ記名債權譲渡ノ效果ハ指圖債權譲渡ノ效果ニ付き前キニ説明シタル所ト略ホ同一ナリ即チ左ノ如シ
一、債務者ハ債權證書ニ記載シタル事項及ヒ其證書ノ性質ヨリ當然生スル結果ヲ以テ讓受人ニ對抗スルコトヲ得何トナレハ此等ノ事項及ヒ結果ハ債權讓受ノ當時讓受人ノ當ニ知ラナルヘカラナル所ニシテ之ヲ知ラヌリシト言ハハ過失ノ責ハ讓受人ニ在ルコト指圖債權譲渡ノ場合ト毫モ異ナル所ナキヲ以テナリ例ヘハ時計商カ特別ノ廉價ヲ以テ時計ヲ販賣セントシ切符ヲ發行シ切符ニ掲ケタル代金引替ニ時計ヲ引渡スヘキ旨ヲ記載シタルトキハ時計商ハ其代金ノ支拂ヲ受タルニ非ナレハ時計ヲ引渡スノ義務ナシ又音樂會其他ノ興行ニ付キ發行シタル入場切符ノ讓受人ハ入場ノ遲速ニ依リ其占領

スヘキ坐席ニ差等アルヘキコトハ其當ニ豫知スヘキモノナルヲ以テ既ニ先著者ノ爲メニ占領セラレタル良好ナル坐席ヲ自己ノ利益ノ爲メニ要求スルコトヲ得サルモノトス。此事件ニ於テは、英國軍艦ノ船員等が、英國領海にて敵國軍艦ノ攻撃ヲ受ケタルトキ自衛上ニ抵抗スルハ決シテ中立國ノ主權ヲ侵犯スルノ犯意ナキニ由リ之ヲ不法ト爲メ能ハサルモノナルヲ以テナリ故ニ交戦國船舶ハ中立國版圖内ニ於テ敵國ノ攻撃ヲ受クルトキハ固ヨリ中立國政府ニ其保護ヲ依頼スヘク而シテ中立國ノ之ニ應スルノ意思ナキカ若クハ其保護ヲ與フルノ力ナキニ於テハ自衛上ノ行動ヲ爲シ得ヘキモノトス。此事件ニ付テハ中立國ハ戰争ニ使用ノ目的ヲ有スル船舶及ヒ器具等ヲ其版圖内義務ニ付テハ中立國ハ戰争ニ使用ノ目的ヲ有スル船舶及ヒ器具等ヲ其版圖内

然レトモ此事件ヲ審ニ研究スルトキハ其判決ハ正當ナレトモ理由ハ完全ナルモノト謂フコト能ハス何トナレハ此事件タル英國軍艦ノ意思如何ナリザヤニ拘ラス兵力爭鬭ハ米國船ニ因リテ開始サレタルコト疑ナキヲ以テ英米船舶共ニ葡國ノ中立權ヲ侵害シタルモノトス而シテ其不法行爲ノ結果タル損害ヲ葡國ニ對シ賠償ヲ求ムル能ハサルハ論ナキ所ナリ然ルニ判決ノ理由ニ云ヘル如ク單ニ敵國ヲ攻撃シタル事實アルノミニテハ必スシモ中立國ハ之ニ保護ヲ爲スヘキ義務ヲ免ル能ハスシテ若シ交戦國一方ノ船舶ニシテ中立國領海ニ於テ敵國軍艦ノ攻撃ヲ受ケタルトキ自衛上ニ抵抗スルハ決シテ中立國ノ主權ヲ侵犯スルノ犯意ナキニ由リ之ヲ不法ト爲メ能ハサルモノナルヲ以テナリ故ニ交戦國船舶ハ中立國版圖内ニ於テ敵國ノ攻撃ヲ受クルトキハ固ヨリ中立國政府ニ其保護ヲ依頼スヘク而シテ中立國ノ之ニ應スルノ意思ナキカ若クハ其保護ヲ與フルノ力ナキニ於テハ自衛上ノ行動ヲ爲シ得ヘキモノトス。此事件ニ付テハ中立國ハ戰争ニ使用ノ目的ヲ有スル船舶及ヒ器具等ヲ其版圖内義務ニ付テハ中立國ハ戰争ニ使用ノ目的ヲ有スル船舶及ヒ器具等ヲ其版圖内

ニ於テ製造シテ自國ヨリ出フル者ヲ絕對的ニ禁止スヘキ義務アリト云フニ非
ス固ヨリ此等ノ物件ハ戰時禁制品ナルヲ以テ交戰國ハ其敵國ニ入ラントスル
トキ之ヲ捕獲沒收シ得ヘキモノナレトモ中立國ハ其出港ニ關シ何タル義務ヲ
有スルモノニ非ス然レトモ軍艦其他ニシテ現ニ行ハレラツアル戰爭ニ使用サ
ルルノ目的ナルトキハ其出港ヲ防止スヘク中立國ノ怠慢又ハ不公平ヨリシテ
其出帆ヲ爲スニ至リタルトキハ其結果ニ付キ責任ヲ免ルルコト能ハス然レト
モ此道理ヲ實際ニ適用スルニ當リテハ最モ困難ヲ極メ千八百六十三年英國法
廷ハ「アレキサンドラ事件ニ於テ判決シタル所ニ依リテ觀ルモ第十九世紀ノ半
頃マテハ同國ノ意見トシテ戰爭國ニ適シタル船舶ノ中立國領海ヲ出ツルヤ否々
戰鬪行爲ヲ爲シ得ヘキ状態ニテ出帆スルニ非サレハ中立國ハ之ヲ防止スヘキ
義務ナキコトト爲シタルカ如ク「アラバマ」事件ニ由リ此意見
ハ中立國ノ義務如何ヲ區別スルニ當リ不完全ナルコト明カナルニ至リ又米國
ニ於テハ船舶ノ戰爭行爲ニ用ヒラルヘキモノト證據ニ依リ認メ得ヘキトキハ
中立國ハ其出帆ヲ防止スヘキモノトシ此點ニ關シテ「アラバマ」判決並ニ華盛頓

條約ニ就キ議論ノ絶エサル所ニシテ此問題ハ國際公法上未定ノ地位ニ在ルモ
ノトス隨テ各國ハ今日此點ニ付テハ任意ニ之ヲ定メ米國法廷ノ意見ニ依ルト
キハ軍艦、兵器ヲ賣買スルノ意思ニテ中立國ヲ出帆スルハ禁セサル所トシ戰鬪行
爲ヲ爲スノ意思ヲ以テノ出港ハ中立國ニ於テ禁止スヘキモノトセリ即チ同國
法學者ダナハ之ヲ審ニ説明シテ曰ク中立國版圖内ニ於テ戰時禁制品ヲ製造シ
捕獲ノ危險ヲ冒シテ交戰國ノ市場ニ出スハ不法ニ非シテ交戰國ノ之ヲ捕獲
シ得ヘキ權利アルニ過キス然レトモ交戰國一方ニ戰爭上直接ノ妨害ヲ爲ス爲
メ又ハ妨害セントスル結果ノ目的ヲ以テ出帆スルハ中立國ニ於テ禁止スヘキ
義務ヲ有ストセリ此米國ノ意見ニ據ルトキハ同一物件ノ出港ニ際シ其意思如何ヲ識別スルノ困難アリ加フルニ其物件ヲ賣却スルノ意思ト戰鬪ニ使用スル
ノ意思ト混同シ居ルコト妙カラス此點ニ付テハ千八百三十二年「クインシー」事
件ニ於テ米國法廷ハ戰爭行爲ヲ爲スヘキ事實上確定シタル意思ト未確定又ハ
條件附ノ意思トテ區別シ「クインシーフィ」所有船ボリバード号ノ米國ニ於テ製造
ナレ西印度島ニ航海シ同島ニ於テ「アラバマ」王ノ爲メ戰爭行爲ヲ爲ス又材料ヲ

得ントシ米國ヲ出帆セントシタルハ其船舶ノ戰爭行為ヲ爲スニ關シテハ條件附ノモノナルニ由リ無罪ノ判決ヲ下セリ但シ米國ノ如ク賣買ノ意思ト戰爭ノ意思トヲ區別シテ以テ中立國ノ義務ヲ判定スルハ最モ困難ニシテ實際行フヘカラナルコトアルニ因リ「ホール」ハ自己ノ意見トシテ船舶ノ構造上主トシテ戰鬪ノ用ヲ爲スヘキモノハ其出帆ヲ禁シ之ニ反シテ主トシテ商業用ニ適スルモノハ戰爭中交戰國ニ引渡フ爲スモ妨ケナシトスルヲ以テ國際公法ノ法則ト爲サンコトヲ希望セリ然レトモ此說タル意思如何ヲ區別スルノ困難ナキト同時ニ商船トシテ引渡シタル船舶ノ軍艦其他ニ轉用セラルヘキ弊害ヲ免レス要スルニ此點ニ付テハ確定シタル法則ナリ「ホール」ノ說モ一箇ノ私見トシテ見ルヘキナリ

第四章 交戰國ノ中立國人民ニ對スル權利

第一節 總 則

國際公法ノ果シテ法律ナリヤ否ヤニ付テハ議論ノ存スル所ニシテ其法則ニ遇

反スル者アル場合ニ於テ制裁力ノ存セサルハ之ヲ法律ト爲スヘカラストスル主ナル論據ト爲ルモノトス然レトモ國際公法ノ法則中ニ付キ此論據ノ例外ト爲リ法則達反ノ場合ニ制裁ノ現存スルモノアリ即チ本章ニ論スヘキ凡テ戰爭ニ於テ中立國人民ノ行爲ヲ拘束スヘキ交戰國ノ權利ニヨテ海上ニ於テ中立國箇人ニシテ交戰國間ニ於ケル戰爭ノ權利ヲ侵害スルトキハ交戰國ハ之ヲ逮捕シ自ラ處罰ヲ爲シ得ヘク中立國モ之ニ對シテ故障ヲ唱フルコト能ハカルモノトス而シテ交戰國ノ斯ル行爲ヲ處罰スルニ付テハ國際公法ノ法則ニ由リ捕獲審檢所ノ裁判ヲ以テシ中立國ト交戰國トノ間ニ於テハ之カ爲メ直チニ外交上ノ問題ヲ惹起スコトナク單ニ交戰國ニ於テ其裁判不當ナル場合ニ際シシ之ニ對シテノミ中立國ハ賠償ヲ請求シ得ヘキニ過キス元來國際公法ハ國家ト國家トノ權利義務ノ關係ヲ定メタル法則ニシテ國家ト箇人トノ權利義務ヲ論スルニ非サルヲ通則トシ國際公法上ノ主體ハ管ニ國家又ハ交戰團體ナルニ拘ラス何故ニ本章ニ於ケル交戰國ノ中立國箇人ニ對スル法則ヲ國際公法中ニ於テ論スルヤト云ハハ戰時禁制品封港等ニ關シテ交戰國ノ中立國箇人ニ對スル權利ハ

是レ素ト戰爭ナル國家間ノ關係ニ附隨スル權利ニシテ古來列國ノ承認ニ出ア列國ハ明示又ハ默示ノ同意ヲ以テ國際公法上ノ法則ト認メ公海ニ於テハ船舶並ニ人民ノ行爲ハ其本國ニ於テ審理裁判スヘキモノナルニ拘ラス列國ノ合意ニ因ツ其戰爭ニ關スル一定ノ行爲ハ之ヲ各自國ニ於テ審理裁判セスシテ交戦國ノ審理裁判ニ一任シタルニ基クモノトス

第二節 中立國人民ノ普通商業

第一款 中立國人民ノ財產

中立國私人ノ船舶及ヒ其搭載品等ニシテ其船舶ノ使用ハ戰時國際公法ノ法規上禁制スヘキモノナラサルトキ又其貨物ハ之ヲ搭載スル船舶ノ戰争行為ニ何タル關係ヲ有セス又其船舶若クハ貨物ハ其到達地ニ付キ禁制ナレ居ラサル商業フ意味スルモノニシテ中古以來コンソラト、デル、マール法典ニ於テハ交戦國ハ凡テ海上ニ於ケル物品所有者ノ敵人ト否トニ據リテ之ヲ捕獲スヘキモノト否トヲ定メタルモノニシテ敵國ノ物品ハ中立國船舶ニ搭載スルトキト雖モ之ヲ捕獲シ其船舶ヲシテ敵物ヲ自國ニ取リ安全ナル場所ニ運搬セシムテ之ヲ取得シ船長ハ物品所有者ト其運搬ニ付キ約定シタル運賃ヲ受取り之ニ反シテ中立國ノ物品ハ敵國船舶ニ在ルトキモ捕獲セラルコトナク單ニ物品所有者ニ於テ其船舶ヲ賠償シテ航海ヲ繼續スルヲ得ヘタ若シ其船舶ノ賠償ヲ爲サアルトキハ捕獲者ハ其船舶ヲ自國ニ送致シテ之ヲ取得シ貨物所有者ハ其船舶所有者ニ拂フヘキ運賃ヲ捕獲者ニ拂フヘキモノトセリ而シテ若シ此場合ニ於テ貨物所有者ハ船舶賠償ニ付テ捕獲者ニ對シ滿足スヘキ協商ヲ爲ナントスルキ拿捕者ニシテ之ヲ拒ムトキハ貨物所有者ハ捕獲者ニ對シ損害ノ賠償ヲ求メ

得ヘク又貨物ノ運賃ヲ捕獲者ニ支拂フノ義務ナシトセリ此法則ハ宗教改革ノ頭ヨリシテ歐洲一般ニ行ハレ文明ノ進歩ト其ニ商業ノ隆盛ニ赴キタルニ隨ヒ拿捕シタル船舶其他財產ヲ交戦國ハ裁判シテ其捕獲スヘキモノト否トヲ審理スル爲メ捕獲審檢所ヲ設クルノ義務ヲ諸國一般ニ認メ敵物ノ中立國船舶中ニ在ルトキハ船舶ヲ解放シテ敵物ノミヲ沒收シ其船舶所有者ハ其物品ノ運賃ヲ受ケ之ニ反シテ敵船ヲ捕獲シタルトキハニ搭載ノ中立國財產ヲ解放スルノ法則ハ「クロシニス」「ビンケルシヨーク」及ヒ「バラフ」ヲ始メ第十八世紀ノ中頃ニ至ルマテノ學者ハ之ヲ唱道シ英國ノ如キモ千八百五十六年ニ至ルマテ此法則ニ準據セリ
斯ク物品所有者ノ敵人ト否トノミニ由リヲ捕獲ト否トヲ決スルノ法則ハ商業ノ發達スルニ隨ヒ中立國ノ商業ニ對シ戰爭妨害ヲ減スルノ主旨ヨリシテ變例ヲ生ダ單ニ船舶所有者ノ敵人ト否トニ由リヲ其搭載品ノ敵物ト否トニ拘ラス之カ捕獲ト否トヲ定ムヘキ所謂自由船自由物敵船敵物ノ法則ハ第十七世紀中和蘭國ニ於テ主唱セシ所ナリ此法則タル固ヨリ當時國際公法ト爲スヘカ

ラナリシヲ以テ列國ノ其利益ヲ得ントセハ條約ヲ以テ之ヲ約定スヘキコトト着做サレ千六百五十一年乃至千八百一年ノ間ニ於テ諸國ハ此規定ヲ條約ヲ以テ定メタルモノ多ク又此新法則ト「コンソラトーデル・マーク」ノ原則ヲ合併シ混同シテ大陸學者中ニ於テハ敵船ニ於ケル中立國ノ貨物ヲ自由トシ中立國船舶中ニ於ケル敵物ヲモ自由ナリト主張シタル者アリ之ニ正反對ニテ佛國ノ如キハ第十六世紀及ヒ第十七世紀ニ於テ時トシテハ敵船ニ於ケル中立國ノ財產並ニ中立國船舶ニ於ケル敵物ヲモ捕獲沒取シ甚シキニ至リテハ佛國ルイ十四世ヲ始トシ佛國ハ千六百八十年以後西班牙國ハ千七百四年以後千七百四十四年ニ至ルマテ敵物搭載ノ中立國船舶ヲモ其敵物ノ搭載ノ故フ以テ沒收シタルコトナルカ千八百五十四年英佛兩國ハ露國ニ對スル「クリミヤ戰爭」中ニ於テ中立國ノ船舶ニ搭載ノ敵物並ニ敵國船舶中ニ在ル中立國物品ヲ沒取セサルコトト爲シ此時ヨリシテ海上捕獲ニ關シテ國際公法上一定ノ法則確定シ居ラサリシカ爲メ其後諸國ハ各任意ニ之ヲ處置シ其捕獲沒取ヲ國ニ由リテ異ニシ來タルコトナルカ

問ニ折衷ヲ見ルニ至リ自由船自由物ノ原則ヲ適用スルト同時ニ敵船敵物ノ道理ヲ援用セシシテ敵船中ノ物品ニ關シテハ「ゴンツラドー・デル・マール」ノ古法則ヲ適用シ其結果トシテ中立國商業ニ最モ重大ナル原則ヲ巴里宣言ニ由サテ規定スルニ至レリ然レントモ此現行法則タル「クリミヤ戰爭」於テ發明シタルニ非シテ千七百五十二年「シレシア負債事件」ニ於テ普國ハ英國ニ對シテ其道理ヲ國際公法ノ法則ト主張シタルトモ普國ハ英國政府ノ議論ニ壓セラレ又捕獲ニ關シテ巴里宣言ノ主義ヲ千七百八十二年所謂第一武裝中立及ヒ千八百年第二武裝中立ノ同盟國ノ主張シタル所タリ然ルニ露國カザリシ三世ノ唱道ニ係ル第一武裝中立ノ宣言ハ千七百八十三年英米兩國ノ媾和條約ニ於テ其實效ナキニ至リ第二武裝中立ニ於ケル同一ノ宣言ハ其主唱者タル露帝ボール一世ノ崩御ト共ニ其勢力ヲ失ヒ之ト同時ニ此主義ニ反對セル英國政府ニ於テ中世ノ法則ヲ墨守シ嚴正ナル態度ヲ盡クシタルカ爲メ數箇月ノ後ニ實行ナキニ至リ其後海上捕獲ニ關シテ諸國ノ態度一定シタル所ナカリシカ「クリミヤ」戰爭ニ於テ英佛兩國ノ此點ニ付キ一致ノ態度ヲ取リ同戰爭終了後千八百五十六年四

月十六日英佛普墳露ナルヂニヤ及ヒ土耳其ノ七國ハ巴里宣言ヲ以テ前ニ述ヘタル四箇條ノ約定ヲ爲シ其第二條ニ於テ局外中立國ノ旗章ヲ掲クル船舶ニ搭載スル敵國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ除クノ外之ヲ拿獲スヘカラナルコト又第三條ニ於テ敵國ノ旗章ヲ掲クル船舶ニ搭載スル局外中立國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ除クノ外ハ之ヲ拿獲スヘカラナルコトトシ北米合衆國、西班牙、墨西哥、ペニシエラ及ヒ支那ヲ除キ其他諸國ハ悉ク此宣言ニ加盟スルニ至レリ而シテ米國ノ之ニ加盟セナルノ理由並ニ方今ニ於テハ総令巴里宣言ニ加盟セナル國家ニ於テモ其加盟ナキヲ理由トシテ此原則ヲ實行ヲ拒ミ能ハサルニ至リタルノ事由アルコトハ前ニ詳述シタルカ如ク又實例ニ於テモ千八百五十六年以後ノ戰爭ニ於テ此法則ニ反對ノ行爲ヲ爲シタル國ナシ茲ニ問題ト爲ルハ第二條ニ於ケル中立國船舶中ニ在ル敵國物品ヲ拿捕スルノ妨害ヲ中立國船舶ニ加ヘサルハ巴里宣言ニ由リ中立國ニ與ヘタル特典ナレトモ此點ニ付キ二箇ノ疑問ノ生シ來ラサルヲ得ス即チ第一ハ同宣言ニ加盟セナル中立國ニ對シテ同宣言ニ加盟セル交戰國皆此特典ヲ與ヘサセモ人夫然否

ミナラス既ニ宣言ノ未條ニ於テ同條約ハ締盟國又ハ之ニ加盟ノ國家間ヲ除ク
ノ外ハ拘束力ナキコトヲ明定セルヲ以テナリ然レシモ巴里宣言ニ加盟セナル
國ニシテ自ラ戰爭ヲ爲スニ當リ方今ニ於テハ中立國旗ノ下ニ在ル搭載品ヲ保
護セルコト能ハナルノ事情ニ立至リ又之ヲ保護スルノ道理ニ由リ行動スルニ
拘ラス宣言ニ加盟セル國家ノ戰爭ヲ爲スニ際シテ斯ル中立國ニ對シテハ宣言
ニ加盟セナルノ故ヲ以テ宣言ノ明文上中立國ニ與ヘタル特典ヲ與ヘス又之ヲ
受クル能ハストスルトキハ其中立國ニ於テ自ラ好感情ヲ有スル能ハナルヘキ
ニ由リ列國ノ實例ニ於テモ千八百七十年普佛戰爭中兩國ハ巴里宣言ニ加盟セ
サル米國及ヒ西班牙國ノ船舶ニ關シテモ同シク此宣言ノ規定ニ依リテ行動セ
リ更ニ又第二ノ疑問タルヘキハ交戰國ノ一方ハ同宣言ニ加盟シ他ノ一方ハ之
ニ加盟セナル者ナルトキハ加盟國ハ敵國ニ對シテ巴里宣言ノ規定ヲ實行スル
ニ義務アリヤ否ナニ問題ヲ生スルヲ免レス此點ニ付テモ議論ノ存スル所ナレ

第二款 臨檢及搜查

トニ前述ノ理由ニ據リ實例ニ於テハ千八百六十年阿片戰爭ニ於テ英佛兩國ハ清國ニ對シ千八百八十五年智利〔ベリエ〕爾國ノ西班牙國ニ對シ千八百九十四年日清戰爭中我國ノ清國ニ對シテモ敵國ハ巴里宣言ニ加盟セサルニ拘ラス同宣言ノ規定ヲ實行シ清國モ亦中立國船舶中ニ於テ我國ノ物品又ハ我國船舶中ニ於ケル中立國ノ物品ヲ捕獲セント企テタルコトナシ

第二款 臨檢及ヒ搜查

トセハ交戦者ハ海上捕獲ノ権利ヲ有スルモ全然無用ニ屬スルノ結果ヲ來スベ
ク交戰國ノ中立國人民ニ對スル權利ヲ論スルモ實用ナキニ至ルヘシ故ニ交戰
國軍艦ハ海上ニ於テ自國船舶、敵國船舶ニ付テハ固ヨリ臨檢、搜查ノ權ヲ有スル
フミナラス中立國ノ領海以外ニ於テハ第三國ノ私有船舶ニ對シテ亦其進行ヲ
停止スルコトヲ命令シ之ニ臨檢及ヒ搜查ヲ行ヒ其船舶並ニ搭載品ノ果シテ捕
獲スヘキ物ナルヤ否ヤヲ検査スルノ権利ヲ有スルハ古來ノ慣法ニシテ學者
モ之ニ異論アルコトナク諸國一般ニ承認スル所ノ法則トス而シテ此權利ハ單
ニ戰爭中ニ限り平時ニ於テハ他國船舶ニ對シテ斯ル權利ヲ有スルコトナク又
戰爭中此權利ヲ行フ者ハ交戰國ノ軍艦ニ限り又其臨檢、搜查ヲ受クヘキ者モ亦
第三國ニ對シテハ其私有船舶ニ限リ官船ニ及ホスコト能ハスシテ中立國ノ軍
艦其他官船ニ對シテ之ヲ行ハントスルハ其國主權ニ對スル大ナル侮辱ニシテ
其權利ノ侵害トス而シテ交戰國軍艦ノ臨檢、搜查ヲ爲スニ付テハ中立國ノ船舶
モ之ニ服從スヘク若シ抵抗スルニ於テハ其船舶ハ敵國ニ屬スルモノト同一視
セラレ沒收ヲ受クヘキモノトス之ニ反シテ敵國商船其他ノ私有船舶ニ臨檢搜

査ヲ爲サントスル場合ニ於テハ其船舶ハ之ニ抵抗スルノ権利ナキニ非シ
テ其抵抗ハ爲シ得ヘキモ其力足ラサルニ於テハ之カ爲メ苛酷ナル處罰ヲ受ク
ヘキ危險ハ自ラ伴ハナルヲ得ス凡テ捕獲ニ關シ我國海軍捕獲規程第一條ニ
於テモ帝國軍艦ハ敵國若クハ嫌疑アル船舶ノ進行ヲ止メ之ヲ拿捕スルコトヲ
得トアリテ交戰國軍艦ハ海上ニ於テ私船ニ遇ヒタルトキハ信號旗又ハ汽笛若
クハ空砲ヲ發シテ其進行ノ停止ヲ命令シ若シ停止ヲ肯セス又ハ逃亡セントス
ルトキ或ハ抵抗シタルトキ若クハ敵國船舶ナルトキハ之ヲ拿捕シ得ヘク又中
立國ノ商船ハ其中立國ニ屬スルコト並ニ其航海ノ目的ヲ證明スヘキ證書ヲ船
中ニ有スヘキヲ以テ海上ニ於テ交戰國軍艦ノ爲メ其進行ヲ停止セラレタルト
キハ軍艦ヨリ派遣スル士官ニ其船舶ノ國籍、航海ノ目的及ヒ荷物ノ性質ヲ書類
エ據リ其尋問ニ對シテ證明セサルヘカラスチ交戰國軍艦ニシテ私有船舶ノ
航海ヲ進行ヲ停止シテ其船舶ヲ調查スルヲ臨檢ト曰ヒ斯ル場合ニ當リ向ホ交
戰者ニ於テ疑フ招クトキハ其船舶ヲ搜索検査スルヲ得之ヲ名ケテ捜査權ト

交戦國軍艦ノ斯ク臨検検査ヲ行フカ爲メ船舶ニ接近スルニ當リテハ特ニ軍艦ノ國旗ヲ偽リ又ハ國旗ヲ掲揚セサルモ妨ナシト雖モ臨検検査ヲ行フニ際シテハ其軍艦本国ノ國旗ヲ掲揚セサルヘカラス又私船ニ停止ヲ命ダタル場合ニ於テ之ヲ肯セサルトキハ空彈ヲ發砲シ又ハ實彈ヲ其船體ノ近ク發射シテ其命令ヲ遂奉セシメ得ベタ其他私船ノ進行ヲ停止セシムルニハ如何ナル信號ヲモ用ヒ得ヘキモノタリ而シテ尙ホ其命令ニ從ハサルトキハ兵力ヲモ用ヒ得ヘキモフトス然レトモ臨検検査ヲ行スニ當リテハ相當ノ禮義ヲ守リ成ルヘク其船舶ノ航海並ニ内部ノ事務ニ妨害ヲ加フルコトハ避ケタルヘカラス而シテ臨検検査ノ結果ニシテ其船舶又ハ積荷ニ嫌疑アルトキハ之ヲ最近ノ自國、捕獲審檢所ニ送致シ裁判セシムベク其審判ニ由リ處罰セラルヘキモノハ沒收セラレ之ニ反シテ十分ノ疑アリタルモ捕獲ト爲ルヘキ證據不十分ナルトキハ放免セラレ船舶ノ抑留及ヒ航海遲延ニ伴フノ費用ハ船主ノ負擔ニ屬シ其拘留引致ニシテ軍艦ノ專横ニ出テ拿捕ノ理由ノ存セサルトキハ軍艦本国ハ其損失ヲ負擔セサルヘカラス要スルニ中立國ノ私有船舶ニシテ拿捕セラルヘキ場合ハ第一、交戦

國軍艦ノ臨検、検査ニ反抗スルカ第二、其臨検、検査ニ依リ船舶ノ不正ノ行爲ニ使用セラレ居ルカ又ハ其搭載品ニシテ捕獲セラルヘキモノナルコト明カナルカ又ハ正當ニ其疑アルトキ第三、船舶ノ書類ニ付キ船舶真正ノ性質ニ不明ナル所アル場合トス

前述ノ法則ニ據リ交戦國モ安全ニ戰時ノ權利ヲ行ヒ得ベク中立國ノ船舶モ亦不當ナル拘留引致ヲ免ルヘキコトナレトモ近來中立國船舶ヲ保護セントノ熱心ヨリシテ一層嚴ナル制限ヲ臨検、検査ノ實行ニ加ヘント主張スル學者ナキニ非ヌ「ボートフヰユ」ノ如キハ臨檢士官ハ船舶ノ記録書類以外ヲ臨檢スヘカラストシ「オルトーラン」ハ其書類ニ詐偽ノ疑アルトキニ限り其以外ノ處分ヲ爲シ得ヘシトセルモ此等ノ說ハ現行國際公法ノ法則ト看ルヘカラスシテ列國條約ヲ以テスルニ非ナレハ其說ヲ實行スルコト能ヘス又學理上ニ於テモ苟モ交戦國ニ於テ敵國私有財產又ハ戰時禁制品ヲ捕獲シ得ル權利ノ存在スル間ハ交戦國ヲシテ臨検、検査ノ權ヲ十分ニ行ハシメサルニ於テハ捕獲ノ法則ハ自ラ實用ヲ見ルコト能ハナルニ至ルヤ明カナリ故ニ我國海軍捕獲規程第十二條ニ於テ

臨檢搜查ノ方法ヲ詳細ニ規定シ艦長ハ船舶ノ拿捕スヘキ疑アル場合ニ限リ、臨檢員ヲ指命シ臨檢ヲ行フモノトシ其船舶ノ進行中止ヲ命シ臨檢員ハ先ツ船舶ノ書類ヲ點検シ書類其他ノ點ニ於テ疑ナシト断定スルトキハ直チニ放免シ之ニ反シテ疑アリト思考スルトキハ船舶内ヲ捜査シ閉鎖シタル場所及ヒ器具ハ船長若クハ代理者ヲシテ開カシメ拒ムトキハ臨檢ノ處置ヲ爲スヘシ云ト規定シ第十三條ニ於テハ臨檢及ヒ捜査ニ依リ艦長若シ該船ニ嫌疑アリト思考シタルトキハ艦長ヲシテ説明ヲ與フルノ便ヲ得セシメ艦長説明ノ後猶ホ拿捕スヘキ證據アリト信スルトキハ該船舶ヲ拿捕スヘキモノトス拿捕スヘキ證據ト爲ルヘキ事項トハ第一、船ノ性質、艦裝及ヒ積荷第二、該船ノ書類第三、船長及ヒ水夫ノ證言ヲ云フト規定セリ茲ニ問題ノ存スルハ中立國船舶ノ船長ニシテ臨檢、捜査ニ反抗スル場合ニ於テハ其搭載品ヲモ捕獲シ得ヘキヤ否ヤノ疑問ナリ勿論船長ノ臨檢、捜査ニ反抗スルトキハ其船舶ノ沒收サルヘキコトハ交戰國ノ權利トシテ第三國ノ領海以外ノ海上ニ於テハ總テノ船舶ヲ正當ニ臨檢、捜査スルノ權利アルヲ以テ之

ア妨害スルノ點ヨリシテ自ラ其違反ノ處罰アルヘキハ論ナシト雖モ之カ爲メ其船舶中ノ搭載品ヲ沒收サルヘキヤ否ヤニ付テハ議論アルヲ免レス此點ニ關シテハ英米兩國ノ法廷ニ於テハ其處分ニ付キ論究シタルノ實例アリテ兩國共ニ斯ル場合ニ於テハ其搭載品ハ船舶ノ運命ニ伴フモノトシ船舶ノ違反ニ因リ沒收セラルトキハ搭載品ヲモ沒收スルコトト爲シ船員ノ國際公法ニ對スル犯行ハ其保管ノ下ニ居ル財產ハ全然處罰スヘキモノトセリ然レトモ敵國船舶中ニ在ル中立國ノ搭載品ニ付テハ其趣ヲ異ニシテ若シ其船舶ノ臨檢、捜査ニ反抗スル場合ニ於テハ英米兩國ハ互ニ其意見ノ一致ヲ見ル能ハスシテ英國ハ其搭載品ハ船舶ノ反抗ノ爲メニ何タル影響ヲ被ルヘキモノニ非ストシ敵國船舶ハ其保管ノ下ニ在ル財產ヲ敵國ヨリ取戻スノ權利ヲ有スルト同等ニ中立國ノ物品所有者ハ其船長ノ敵國軍艦ニ反抗ヲ豫想セサル所ナリトシ之ニ反シテ中立國人民ニシテ其物品ヲ敵國ノ軍艦其他武裝ノ商船中ニ搭載スルトキハ其搭載品ハ敵國ノ爲メ保護セラルヘキコトハ容易ニ豫想シ得ヘキニ由リ固ヨリ敵物トシテ沒收セラルヘキモノトセリ然ルニ米國ニ於テハ中立國人民ノ目的

ハ更ニ其物品ヲ運搬スルニ在リテ之ヲ運搬スル船舶ノ武裝スルト否トハ物品
所有者ノ關係セサル所ナルカ故ニ其武裝スルト否トニ由リテ捕獲スル能ハス
トスルニ在リ然レトモ此點ニ付テハ英國ノ意見ハ正當ニシテ武裝ノ敵船中ニ
在ル搭載品ハ捕獲セラルヘキカ如シ
臨檢搜查ニ付キ議論ノ存スルハ中立國船舶カ其國軍艦ノ警護ニ係ルモノニ對シ
交戰國軍艦ノ臨檢搜查ヲ行フコトヲ得ルヤ否ヤノ點ニシテ千六百五十三年英
國ト「バルチフ」聯合國トノ戰爭中瑞典國女王クリスチアナハ布告ヲ出シテ自國
商船ハ軍艦ノ警護ノ下ニ航海スルヲ得ヘクスル場合ニハ警護艦ハ其保護ノ下
ニ在ル船舶ノ臨檢搜查ヲ拒絶スヘキコトヲ訓令シ第十八世紀ノ中頃ヨリシテ
此點ニ付キ列國間ノ問題ヲ惹起シタルコト少カラス千七百八十年和蘭國ハ其軍
艦ニ命令ヲ下シ中立國軍艦ノ自國船舶ヲ警護シテ航海スルトキハ軍艦ニ於テ
其警護スル船舶ニ罪狀ナキコトヲ言明スルトキニ限り之ニ臨檢搜查ヲ行フヘ
ガラストシ千七百八十二年瑞典商船六艘ノ軍艦警護ニ係ルモノニ對シテ英國
軍艦ノ臨檢ヲ試ミタルカ爲メ兩國ノ問題ト爲リ瑞典國ハ之ヲ露國ニ訴ヘ露帝

「カザリン二世ノ首唱ニテ第一武裝中立ノ同盟起レリ其武裝中立ノ宣言中ニ於
テ軍艦警護ノ下ニ在ル中立國船舶ニ對シテ臨檢搜查ノ權利ナキコトヲ規定シ
諸國ハ條約ヲ以テ之ト同一ノ規定ヲ爲スモノ多ク米國モ千七百八十二年乃至
千八百年ニ於テスル條約ヲ六箇國ト締結シ大陸ノ學者ハ此臨檢ヲ免除スヘキ
コトヲ主張スルノミナラス之ヲ國際公法上ノ法則ト論シ英米學者ハ之ニ反對
シ米國學者ノ說ニ依レハ條約ヲ以テ同一ノ規定ヲ爲スニ非サレハ交戰國ハ決
シテ中立國軍艦ノ警護ノ爲メ臨檢搜查ノ權ヲ失ハサルモノトシ殊ニ英國政府
ハ當初ヨリ臨檢搜查ヲ免除スヘキ條約ヲ他國ト締結シタルコトナク千七百九
十八年「マリア」號事件ニ於テハ英國艦隊カ英吉利海峽ニ於テ商船ヲ同國軍艦ノ
警護セルニ拘ラス之ニ臨檢ヲ試ミタルニ際シ瑞典軍艦ノ之ヲ拒ミタルヲ以テ
其商船「マリア」號ヲ拿捕シ單ニ臨檢ヲ拒ミタルノ故ヲ以テ之ヲ沒收セリ尋テ第
二ノ武裝中立同盟ハ露國ノ首唱ニテ惹起サレ其宣言中軍艦警護ノ下ニ商船ノ
航海スルトキハ其士官ニ於テ商船ノ航海ニ付キ罪狀ナキコトヲ言明スルトキ
ハ之ニ臨檢スルコト能ハストセリ然ルニ千八百十三年及ヒ十四四年ニ於テ英國

云武裝中立ノ同盟國タリシ露國、瑞典及ヒ丁抹ハ條約ヲ以テ此等諸國ハ臨檢ノ免除ヲ主張シ得レト同時ニ英國ハ之ヲ拒絶シ得ヘキモノト規定シタルカ爲メ此點ニ付キ締盟國各自ノ任意ト爲リ其後方今ニ至ルマテ列國ノ慣例一定セス諸ナ列國ハ各其政略上任意ニ之ヲ處理スルモノノ如ク英國ハ斷然臨檢、検査ノ權ヲ主張實行シ佛國ヲ始メ獨逸、西伊及ヒバルチツク諸國ハ法規ヲ以テ警護軍艦ヲ言明ニ信據ン船舶ノ臨檢、検査ヲ行フヘカラストシ米國ハ中間ニ立チ法理論トシテハ英國主義ニシテ實行ハ大陸主義ヲ採リ警護軍艦ハ其警護ニ係ル船舶並ニ搭載物及ヒ到達港等ノ目録ヲ備ヘテ之ヲ交戦國軍艦ニ證明スルコト爲セリ要スルニ中立國商船ヲ軍艦ノ警護スル場合ニ於テ交戦國軍艦ノ之ニ臨檢、検査ヲ爲スヘカラストスルハ未タ國際法ノ法則ト爲スコト能ハス又理論上茲ニ中立國及ヒ交戦國間ノ利益上ヨリスルモ長日月ノ間ニハ却テ不利益ナルモノト謂ハサルヲ得ス然レトモ臨檢免除ニ付キ諸國一般ニ異論ナキ一點ハ中立國軍艦ニ於テ交戦國ノ船舶ヲ警護スルハ別ニ咎ムヘカラサレトモ此場合ニ於テハ其船舶ノ爲メ臨檢、検査ヲ免レシムルノ理由ナキカ如ク又中立國船舶ノ交戦國

軍艦ニ警護セラルハ中立ノ違反ナルニ由リ縱令其航海並ニ搭載品ニ罪狀ナク單獨ニテ航海スルトキハ拿捕セラルヘカラサルモノモ敵國軍艦ノ警護ノ下ニ在ルノ理由ニ依リ捕獲セラルノ危險之ニ伴フヘキモノタリ

第三節 封港

第一款 封港ノ性質

封港ハ戰時國際公法中特ニ海上ニ於テノミ交戦國ノ行ヒ得ヘキ權利ニシテ之カ爲メ中立國ノ商業ニ大ナル影響ヲ有スルヲ以テ最も重要ナルモノトス凡ソ陸戦ニ於テ軍隊ノ屯在地ヲ許可ナクシテ通行スルハ犯罪トシテ罰セラレ特ニ敵ノ城堡ヲ包囲スルトキハ城中ト其以外ノ交通ヲ遮断スルモノナレトモ海上ニ於テハ軍艦ノ屯在ノ場所ヲ商船ノ通行スルハ決シテ禁スル所ニ非シテ中立國船舶ハ戰爭中交戦國ニ交通通商ノ權利ヲ有ス然レトモ交戦國ハ戰爭ノ權利トシテ軍艦ヲ敵國ノ港灣ニ近ケ置キテ其港内其他一定ノ場所ニ對シ諸國船舶ノ出入ヲ一切禁止スルヲ得ヘタ之ヲ名ケテ封港ト曰ヒ其目的トスル所ハ

軍略上其封港シタル地方ヲ降服セシムルニ在ルコトアリ又商業政略上敵國ヲ
ザフ外國トノ商業ヲ遮断シ之カ爲メ敵國ノ財源ヲ涸渇シ其戰闘力ヲ滅殺スル
ニ在ルコトアリ而シテ其封港ノ爲メ損害ヲ被ルヘキモノハ管ニ敵國ニ止マラ
スシテ中立國船舶モ其港灣ニ對シテ商業ニ從事スル能ハサルヨリシテ結果ス
ル損害少カラサルコトナレトモ是レ交戦國ノ戰爭ニ關シテ有スル國際公法上
ノ權利ニシテ中立國並ニ其人民モ之ニ對シテ故障ヲ爲スコト能ハサルノミ
ナラス其封港ヲ爲シタル理由ノ當否ニ付テモ容縣スルノ權ナキモノトス然レ
トモ交戦者ト中立國トハ自ラ封港ニ付キ利害關係ヲ異ニスルヲ以テ古來交戦
者ハ時トシテハ敵國ニ於ケル一定ノ港灣ヲ封港スル宣言ノミヲ爲シ又時トシ
テハ其封港ヲ維持スルニ不十分ナル兵力ヲ設置シテ以テ封港ノ結果ヲ收メン
トシ中立國ハ其利益上斯ル宣言的又ハ不完全ナル封港ノ爲メニ其商業ヲ妨害
セラレサラント欲シ第十八世紀ノ中頃以來此點ニ付テハ屢々國際問題ヲ惹起
シ千七百八十年ハルチフク沿海諸國ノ第一武装中立ニ於テハ封港ハ交戦國艦
隊ノ近ツキ來ル爲メ中立國船舶ノ其港ニ入ルニ付キ明カナル危險アル場合ニ

此等ノ統計ニ徴スルトキハ下層ノ人民ハ僅ニ生活ニ必要ナル欲望ヲ滿足シ得
ルノミニシテ所謂文明的生活ニ伴フ他ノ高尚ナル欲望ヲ滿足スルコト甚タ少
キヲ知ルヘキナリ

第二章 消費ト生産トノ關係

第一節 過剩生産

消費ト生産トハ密接ナル關係ヲ有スルモノニシテ生産スヘキ財貨ノ種類及ヒ
其數量ハ之カ消費ヲ標準シテ適應セシメナルヘカラサルナリ隨テ生産ト消
費トハ常ニ其間ニ權衡ヲ維持セントスル傾向ヲ有スルモノナレトモ實際生產
ト消費トハ全ク相投合スルモノニ非ス一年間ニ生産セル財貨ハ其期間ノ消費
ノ爲メニ生セル同種ノ財貨ノ缺乏ヲ補ヒテ或ヘ餘剰アルコトアリ或ハ不足ナ
ルコトアルヘキナリ蓋シ今日ノ經濟社會ノ如ク各種ノ生産カ箇箇獨立ノ企業
者ニ依リテ行ハルベニ於テハ各企業者ハ其生産スル財貨ノ消費額ヲ先見豫定
スルコト甚タ難ク一二ノ生産者カ市場ノ情況ヲ精密ニ測定シテ需要ノ減少ヲ

豫察シ其生産額ヲ減セルカ如き場合ニ他ノ同業者ニシテ却テ其生産ヲ擴張スル者アランニハ其用心注意ハ水泡ニ歸スヘキナリ是レ即チ所謂過剩生產ナムモノノ時時起ル所以ナリトス、為經濟會、或く者財、生産及販賣權、企業過剩生產ハ絕對的ニ起ル場合ナキニ非ス例へハ交通不便ナル海濱ニ於テ非常ナル大漁アリタルトキノ如キ是ナリ然レトモ本節ニ述ヘント欲スルハ比較的ノ生産過剩ナリトス抑ニ現今ノ社會ニ於テハ人生ノ欲望ヲ十分ニ満足シ能ハサルモノ甚タ多ク隨テ諸種ノ財貨カ其數量及ヒ種類ニ於テ今日ニ數倍スルモ若シ之カ價格ヲ大ニ低廉ニセハ忽チ消費セラルヘシト雖モ生産者カ相當ノ利潤ヲ獲得シ得ヘキ價格ヲ維持セントスルトキハ其生産物ノ一大部分ヲ賣却シ能ハサルノ結果ヲ生スルコトアリ是レ即チ所謂過剩生產ナルモノニシテ要スルニ供給遙ニ需要ニ超過スルニ由ルモノトス

此過剩生產ハ一國生産ノ一部ニ止マリテ終ルコトアリト雖モ亦他ニ波及スルコトアリトス例へハ甲ナル工業ニ於テ過剩生產起ルトキハ其企業者ハ或ハ利潤ヲ減シ或ハ損失ヲ招クカ故ニ自己ノ消費ヲ縮少スルノミナラス労働者ノ賃而シテ此等ノ工業ニシテ過剩生產ヲ感スルコト大ナルトキハ其企業者ハ甲工業ノ企業者ト同シク自己ノ消費ヲ減シ労働者ノ賃銀ヲ低クスル等ノ方法ヲ採ルカ故ニ其影響ハ更ニ他ノ生產業ニ及フニ至ルナリ。又甚く體を觸り及ぶ不社會全般ニ亘ル過剩生產ナルモノナシトスル經濟學者尠シトセス其說ニ曰ク人各其生産シタル財貨ヲ以テ他人ノ生産シタル財貨ニ交易スルモノナルカ故ニ自己ノ生産多ケレハ他人ト交易シ得ヘキ財貨增加スルカ故ニ他人ノ財貨ニセンカ乙亦甲ト交易スヘキ財貨ヲ多ク有スルカ故ニ甲ノ財貨ニ對スル需要モ亦增加スルナリ然ラハ則チ甲乙各自カ他ニ對スル需要增加スルヲ以テ交易ハ

容易ニ行ハレ甲乙共ニ生産ノ過剰ヲ覺ユルコトナシト然レトモ更ニ丙ナル者アリテ甲乙ト交易スルモ甲ハ丙ノ生産物ヲ、乙ハ甲ノ生産物ヲ、而シテ丙ハ乙ノ生産物ヲ多ク得ンカ爲ミニ多ク生産シタリト假定セバ三者間ノ需要供給投合セナル故ニ各過剰生産ニ陥ルヘキナリ且之ヲ實際ニ微スルニ殆ト總テノ生産業カ其生産物ノ價格下落ニ遭遇シテ互ニ過剰生産ニ苦ム場合アルフ見ルナ
曼ニ述ヘタルカ如ク生産ト消費トハ全ク相投合スルコト甚タ難ク而シテ其不權衡ニシテ甚シカラサルニ於テハ自ラ調和スルコトヲ得レトモ過剰生産大オルトキハ彼ノ恐慌ヲ惹起スルニ至ルナリ「ロッショル」曰ク恐慌トハ生産之量ニ過キ消費之ニ伴フコト能ハナルニ起因スル一國經濟上ノ病患ナリト又「エルクナー」曰ク恐慌ハ通例生産ト購買力ヲ有スル需要トノ間ニ於ケル權衡ノ破レタルニ外ナラスト而シテ此恐慌ナルモノハ經

第二節 恐慌

濟社會ノ一部ニ起リテ多クハ他ノ部分ニ波及シ甚シキニ至リテハ數國ニ蔓延スルコトアリ我國ノ經濟社會ハ未タ急激ナル恐慌ノ襲來ヲ被ラスト雖モ歐米諸國ニ於ケル恐慌ハ枚舉ニ逸アラサルナリ而シテ恐慌直接ノ原因經過及ヒ其結果ニ至リテハ相同シカラスト雖モ英國ニ起リタル恐慌ニ就テ之ヲ概言スレハ左ニ述フルカ如キ順序ヲ踏ムモノ多シトス或年ニ於テ社會一部ノ人人世間ノ景氣好況ニ赴クモノト爲シ製造、銀行、鐵道等ノ事業ニ資本ヲ投スレハ必ス多大ノ利潤ヲ占ムヘシト信スル者アルフ見ルナリ一部ノ人人此ノ如キ念慮ヲ抱クトキハ他ノ人人モ亦誘ハレテ同一ノ冀望ヲ生シ遂ニ世上ノ景氣益々有望ナリトノ思想ハ社會ノ全面ニ蔓延スルニ至ル是ニ於テ新發明ヲ應用シ新事業ヲ興スカ爲ミニ會社ヲ發起スル者アルトキハ容易ニ株金ヲ募集シ得ルヲ以テ所謂投機者流ハ奇貨居クヘシト爲シ數多ノ新事業ノ計畫ヲ發表シ而シテ或種類ノ株券ニシテ其價格勝貴スルトキハ他ノ株券モ亦早晚騰貴スヘシト信シ投機者流ノ發起セル會社モ忽チ株式ノ應募者ヲ得ルナリ此ノ如ク新事業、新會社相踵ニ起ルトキハ建築製造等ニ必要ナル材料ハ其

價格騰貴シ勞働者モ亦勞働ノ需要増加ノ爲メニ貨銀昂騰シ其消費力膨脹スルカ爲メニ勞働者ヲ顧客トスル商人ハ多大ノ利潤ヲ得ルナリ而シテ他ノ物品モ亦需要ノ增加ヲ豫想シテ商人類ニ買入ヲ爲スカ故ニ其價格ハ次第ニ上騰スルモノトス然レトモ此ノ如キ状態ハ永久ニ繼續スルモノニ非ス株式ノ募集ニ應シタル者ハ其拂込ヲ爲スカ爲メニ銀行ヨリ預金ヲ引出シ隨テ銀行ノ資本缺乏ヲ來スニ當リ製造家商人又ハ投機者流ハ其事業ヲ擴張シ早ヲ趁ヒテ多大ノ利潤ヲ得ントシ爲メニ銀行等ヨリ資本ヲ借入レントスルコト益急ナルカ故ニ金融次第ニ逼迫ヲ告ケ金利隨テ上騰セサルヲ得サルナリ是ヨリ先キ投機者流ハ多クハ種種ノ手段ヲ以テ巨額ノ資本ヲ借入レタルヲ以テ金利ノ上騰ハ此等ノ輩ニ一大痛苦ヲ與フルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ投機者流ノ爲メニ手形ノ割引等ヲ爲シタル資本主ハ漸ク其貸金ノ返済ヲ危ムノ念慮ヲ生スルニ至ル是ニ於テ投機者流ハ進退維レ谷リ遂ニ其所有ノ株券又ハ物品ヲ賣出ス者ヲ生シ而シテ事茲ニ至ルヤ他ノ投機者流モ價格ノ下落ヲ豫想シテ賣出一方ニ偏スルヲ以テ忽チ物價暴落ノ趨勢ヲ促成スルナリ是ニ於テ投機者流ハ其損失ノ爲メニ

債務ヲ辨償スルコト能ハス遂ニ累ヲ他人ニ及ホシ例ヘハ信用ヲ以テ物品ヲ賣込ミタル製造家又ハ資金ヲ融通セル銀行モ亦非常ナル損失ヲ蒙スナリ而シテ破産者續々輩出スルニ及ヒテハ人人皆疑懼ノ念ヲ生シテ信用全ク地ヲ掃フニ至ル是レ即チ恐慌ノ襲來セルモノニシテ世人ハ呆然爲ス所ヲ知ラス經濟社會ハ忽チ寂寥タル景狀ヲ呈スルナリ此恐慌ノ爲メニ損害ヲ被ル者ハ啻ニ企業資本家ノミナラス多數ノ勞働者モ亦其職ヲ失ヒ糊口ニ窮スル者少カラストス而シテ恐慌ノ後ニハ人人大ニ恐懼ノ念ヲ生シ縱令有望確實ノ事業ト雖モ進ミテ之ヲ計畫スル者少キカ故ニ商工業大ニ不振ノ狀態ニ陥リ所謂不景氣ノ嘆聲到ル處ニ聞カサルナシ然レトモ兩三年ヲ過クルトキハ人人多少前年ノ慘状ヲ忘却シ且不景氣ノ際ニハ富有者モ自ラ節儉ヲ行ヒテ貯蓄増殖シ隨テ銀行ノ預金等モ增加シ銀行モ此等ノ資本ヲ使用ゼンカ爲メニ利率ヲ低クシ進ミテ割引貸付ヲ爲スニ至ル是ニ於テ信用漸ク舊ニ復シ再ヒ景氣ニ向ハントスル徵候ヲ現ハスナリ

被ルハ殆ト免ルヘカラサルモノノ如シ而シテ第十八世紀ヨリ第十九世紀ニ亘リ歐洲ニ起レル恐慌ハ約十年ヲ隔テ相踵ケルヲ以テ「ジエヴォンス」ハ之カ原因ヲ太陽熱度ノ變化ニ歸セント難モ其説タルヤ奇矯ニ失スルモノニシテ近時ニ於テハ其循環期ハ不規則的ト爲レリ
社會主義ノ論者ハ今日ノ社會ニ行ハルル自由競争ト土地、資本ノ私有制度トヲ以テ恐慌ノ真因ト爲シ若シ土地、資本ノ私有制度ヲ廢シ箇人間ノ競争ヲ絶テ社會ノ人人協同シテ生產ニ從事スルトキハ生產ト消費トノ間ニ權衡ヲ失スルコトナキカ故ニ恐慌ハ決シテ起ラスト爲スナリ然レトモ曩ニ再三述ヘタルカ如ク土地、資本ノ制度ヲ廢止スルハ到底實行シ得ヘキコトニ非サルナリ且今日ト雖モ恐慌ヲ豫防スル方法絶無ナルニ非ス近時歐米ノ經濟界ニ現出セル企業者組合ハ人爲的獨占ヲ爲シテ生産物ノ價格ヲ高カラシムル等ノ惡弊アリト雖モ箇箇獨立ノ企業者カ相互ノ競争ニ堪ヘス自衛上相合同スルニ至レルモノ亦少カラツルカ如シ其社會ニ及ホス利害得失ニ至リテハ諸説紛糾未タ之カ判斷ヲ下スコト能ハスト雖モ要スルニ一種ノ財貨ノ生產ヲ一手ニ纏メントスルモノ

ナルカ故ニ生產額ノ増減自ラ自在ニシテ若シ巧ニ生產ヲ伸縮セバ以テ過剩生産ヲ豫防スルコト必スシモ難カズアルナリ又過剩生產起リテ繼クニ恐慌ヲ以テセバ勞働者モ亦損害ヲ免レタルカ故ニ勞働者ノ組合モ往往過剩生產ニ對シテ豫防ノ手段ヲ採ルコトアリ例へハ千八百九十二年三月ニ當リ英國ノ抗夫組合ノ一大同盟罷工ヲ爲セルハ其目的主トシテ石炭ノ過剩生產ヲ防クニ在リシト云フ

又義ニ述べタルカ如ク恐慌ノ來ルニ先チ社會一般ニ企業心勃興シ次テ投機的事業ノ旺盛ナルヲ見ルナリ而シテ多數ノ企業者ハ他人ノ資本ヲ使用スルモノナルカ故ニ利率ノ低キハ自ラ企業ヲ獎勵シ其高キハ之ヲ抑制スルノ傾向アルモノトズ故ニ巧ニ利率ヲ高低スルコトヲ得ハ亦以テ恐慌豫防ノ一手段ト爲スコトヲ得ルナリ由來利金ノ高低ハ資本ノ需要供給ノ關係ニ由リテ定マルモノナレトモ一國金融界ノ窮屈ヲ掌握スル中央銀行ノ利率ハ或程度内ニ於テ一般ノ金融ニ影響ヲ及ボスモノニシテ中央銀行ノ利率上ルトキハ市場ノ利率亦上テ中央銀行ノ利率下ルトキハ市場ノ利率亦下ルモノトズ故ニ此勢力ヲ利用シ

テ經濟界ノ變移ニ應スルヘ中央銀行ノ職責ナリトス即テ經濟界ノ好景氣一轉シテ投機的企業物與ノ徵候現ハルニ至ラハ中央銀行ハ時機ヲ失セス十分ニ利率ヲ引上ケテ企業者ニ警告ヲ與ヘ以テ資金需要ノ緊縮ヲ促サナルヘカラス是レ實ニ恐慌ヲ未發ニ鎮壓スルノ良策ニシテ若シ之ニ反シ投機熱ノ旺盛ナラントスルニ當リ中央銀行依然利息ノ低率ヲ繼續シテ增加セル資金ノ需要ニ應スルトキハ益々投機ヲ助長シ遂ニ恐慌ノ襲來ヲ見ルニ至ル而シテ中央銀行屢々利率ヲ引上ケタルモ其效ナク恐慌遂ニ破裂スルニ及ヒテハ益利率ヲ引上バト共ニ毫モ躊躇ノ色ヲ現ハナス盛ニ割引貸付ノ依頼ニ應セサルヘカラスはレ蓋シ人心ヲ鎮撫スルノ祕訣ナリトス抑モ恐慌ノ襲來セルニ際シ人人ノ最モ苦慮スルハ即時ニ其債務ヲ果スコト能ハザルニ在リ若シ債權者ニシテ辨償ノ延期ヲ許諸セハ債務者ハ後日必ス其義務ヲ盡スノ資力ヲ有スルモ即時ニ之カ辨償ヲ請求セラルニ於テハ遂ニ破産セサルヲ得ナル者少カラサルナリ故ニ此ノ如キ人人ハ利率ノ高低ニ關セス目下ノ急ヲ救フカ爲メニ割引貸付ヲ請求スルモノナルヲ以テ中央銀行ハ一方ニ於テハ利率ヲ高メテ以テ需要ノ緊切ナラサル

モノヲ退ケ他ノ一方ニ於テハ相當ノ手形擔保品ヲ提供スル者ニ對シ十分ニ資金ヲ融通スヘシ然ラハ則チ人心自ラ靜穩ニ歸シ恐慌ヲシテ其極點ニ達セシメナルヲ得ヘキナリ而シテ恐慌ノ際市場ノ銀行カ割引貸付ヲ縮小シテ資金ノ回収ヲ圖ルハ自衛上已ムヲ得スト雖モ中央銀行ハ獨リ狂瀾ノ上ニ赫然屹立スルヲ得ルカ故ニ右ニ述ヘタルカ如キ方法ヲ以テ恐慌鎮撫ノ衝ニ當ルハ中央銀行ノ職責ニシテ英獨等ノ中央銀行實ニ之カ適例ヲ示スナリ惟シモ懸念ノ如キ消費ヘ

第三章 人口論

ニ既成ノ事項ナリトス然レントモ「マルサス」ノ人口論ハ主トシテ人類ノ春大吾人人口ハ第一節「マルサス」ノ人口論ハ主トシテ英國ノ人口ハ大

人口ノ多少増減ハ啻ニ經濟上ノ問題ナルノミナラス政事上軍事上等ニ至大ノ關係ヲ有スル事項ナリトス然レントモ「マルサス」ノ人口論ハ主トシテ人類ノ春殖ト食物ノ増加トノ關係ヲ説明セルモノニシテ要スルニ消費ト生產トノ關係ニ外ナラナルヲ以テ茲ニ其概要ヲ述ヘント欲スルナリニ基於本論著イテ得モ「トマス・ロバート・マルサス」ハ英國ノ人千七百六十六年ヲ以テ生レ千八百三十

四年ヲ以テ歿ス其著「人口論」ノ第一版ヲ刊行セルハ千七百九十八年ナリトニヨリ先キ英國ニ於テハ大規模ノ工業與リテ人民ノ都府ニ移住スルコトヲ促シ社會ノ狀態激變ノ際將來ニ對シテ空望ヲ抱ク者多ク隨テ此等ノ徒ハ漫々結婚ヲ爲スノ風習ヲ爲セリ之ニ加フルニ貧民救助法ノ制限大ニ弛ミテ兒女ノ多キモノ殊ニ其恩惠ニ浴シ而シテ戰爭ト工場ノ設立トハ人力ヲ要スルコト多ク人皆人口ノ増殖ヲ冀望セルヲ以テ第十八世紀ノ後半期ニ於テ英國ノ人口ハ大ニ増加シタレトモ食物ノ增加ハ之ニ隨伴セス殊ニ凶穀頻ニ臻リ麵包ノ價大ニ騰貴シ劣等ノ土地亦耕作セラルニ至レリ是ヲ以テ下層人民ノ多數ハ非常ノ悲境ニ陥リ殊ニ都會ニ於テハ製造家等ノ富有ナル生活ニ對シテ懸隔ノ著シキヲ示セリ「マルサス」ノ人口論ハ此ノ如キ狀態ヲ觀察セル結果ニ外ナラサルヲ以テ其少シク極端ニ馳セルハ蓋シ已ムヲ得タルナリ先ツ氏ノ人口論ノ概要ヲ左ニ述ヘン。

現存ノ營養手段以上ニ蕃殖セントスルハ生物界共通ノ傾向ニシテ植物、動物ノ蕃殖力ハ其蕃殖ト營養手段ニ對スル競爭トニ依リテ始メテ制限セラルモノ

トス蓋シ自然ハ動植物ニ非常ニ多數ノ種子ヲ與フルト同時ニ場所ト營養トヲ給スルコト少シトス若シ此等ノ種子ニシテ自由ニ發達スルコトヲ得セシメハ數千年間ニシテ數百萬ノ地球ニ充滿スルニ至ルヘシ而シテ動植物ハ其子孫ニ對シテ毫モ慮ル所ナキカ故ニ生殖ノ自由アルニ於テハ忽チ蕃殖シテ場所ト營養トノ不足ノ爲メニ再ヒ其數ヲ減スルモノトス然ルニ人類ハ強力ナル生殖ノ天性ヲ有スレトモ他ノ生物ト異ナリ理性ヲ備フルカ故ニ過度ノ蕃殖ノ結果ヲ豫知スルコトヲ得ルナリ而シテ人類若シ此理性ノ指導ニ從ハス其養育ヲ顧ミシテ漫ニ子孫ヲ產出スルトキハ自然ハ忽チ其法則ヲ行ハシムルモノトス故ニ人類ハ其蕃殖上常ニ困難ヲ感スルモノニシテ此困難ハ或ハ災害ヲ以テ成ハ灾害ニ對スル恐怖ヲ以テ現ハレ要スルニ人類ヲ苦ムルモノタリ。然レトモ人口ハ其有スル食物以上ニ增加セントスル傾向ヲ有スル也ノニシテ北米合衆國ノ如ク歐洲諸國ニ比シ食物饒多、風俗淳良早婚ヲ妨クル原因少キ地ニ於テハ二十五年以下ヲ以テ人口二倍スルコト百餘年間繼續セラ故ニ他ニ譲權ナキニ於テハ人口ハ二十五年毎ニ二倍スルハ明確ナリトニ至る間ニ二翻文也

然ルニ食物ノ増加、人口ノ蕃殖ニ異ナリ百萬ノ人口カ一十五年間ニ二倍スルハ一千ノ人口カ二十五年間ニ二倍スルト毫モ異ナルナキニ反シ增加セル人口ヲ養フヘキ食物ハ同一ノ比例ヲ以テ增加スルモノニ非ス耕作シ得ヘキ土地ニシテ悉ク人ノ所有ニ歸スルトキハ食物年々ノ増加ヘ土地ニ施ス改良ニ依ラズルベカラス而シテ改良ヨリ生スル收穫ノ増加ハ次第ニ減少スルモノトス今數學ノ方式ヲ以テ人口ノ増加ト食物ノ増加トヲ表示スレハ左ノ如シ
 人口 $1,000 \times 1.03^{x}$
 食物 $1,000 \times 1.03^{x} \times 0.96 \times 0.98^{x}$
 邸チ二百年ヲ經過スルトキハ人口ト食物トハ二百五十六トナントノ割合ト爲リ
 三百年ノ終ニハ四千九十六トナントノ割合ト爲リ二千年ノ後ニハ其割合殆ト
 計算スベカラサルニ至ルナリ半體ノ自由アリタル者ハ其養育費也其勞作也其賃金也
 食物ノ増加スルコト固ヨリ疑ナシト雖モ其増加ノ割合ハ人口増加ノ割合ニ比
 シテ非常ノ差異アルコト右ノ如シ故ニ人口ハ殘酷ナル自然ノ法則ニ依リテ常ニ食物増加ノ程度ニ引戻ナルモノトス而シテ自然ノ法則ノ現ハルルヤ種種

ノ形狀ヲ以テスレトモ之ヲ二種ニ別フコトヲ得即チ豫防的制限及ヒ積極的制
 限是ナリ豫防的制限ハ各箇人人自山行爲ニ依ルモノニシテ道徳的ナルモノト
 不道徳的ナルモノトアリ例ヘハ殺兒、墮胎娼妓ノ制度等ハ後者ニ屬シ克己早婚
 フ爲ササルカ如キ是ナリ移住ノ如キハ前者ノ例トス又積極的制限ハ飢餓、疫病、
 戰爭其他貧困、過度ノ勞働等死亡ヲ奈シ人命ヲ短クスルモノヲ謂フナリ
 「マルサス」ハ更ニ其所說ヲ概括シテ曰ク第一、人口ハ必ス食物ニ依リテ制限セラ
 ルモノトス第二、他ニ有力ナル障礙ノ之ヲ妨タルナキニ於テハ人口ハ必ス食
 物ノ増加ニ伴ヒテ蕃殖スルモノナリ第三、豫防的又ハ積極的ニ人口ノ増殖ヲ妨
 ゲ以テ食物ノ存在額ニ適應セシムル障礙ハ皆克己邪行又ハ災厄ニ歸スルモノ
 トス
 「マルサス」久人口論ハ其主旨トスル所約ヲ右ノ如シ而シテマルサスハ世界各國
 ノ實例ヲ無數ニ蒐集シテ以テ自己ノ所說ヲ證明シ支那、日本、臺灣等ノ事情モ亦
 之ヲ記述セリ

「マルサス」ノ人口論ニ對スル駁論及ヒ之

第二節 「マルサス」ノ人口論ニ對スル駁論及ヒ之

「マルサス」ノ人口論ニ對シテ第一ニ駁論ヲ爲セルハ宗教家ナリトス蓋シ耶蘇教ニ於テハ神ハ人類ニ幸福ヲ與フルモノトシ經典ニ「繁殖シテ地獄ニ充滿セヨ」ト諾アルヲ以テ其「マルサス」ノ人口論ト水炭相容レス宗教家ガ「マルサス」ヲ攻セル真怪シムニ足テ然レドモ經典ノ趣意ニ反スルカ故ニ「マルサス」ノ人口論ハ謬レリト謂フヲ得ナルナリ。斯ニテ第一ニ駁論也。

第二ニ社會主義ハ今日社會ニ存在スル諸種ノ弊害ヲ土地、資本ノ私有制度ニ歸シ此制度ヲ廢スレハ人々圓滿幸福ニ生活シ得ルモノニシテ人口ノ過剰ニ苦ルコトナスナリ。社會主義ノ國家ニ於テハ或ハ今日ノ如ク凍餒ニ苦ム赤貧者ナクランモ到底人口ノ増殖ヲ杜絶スルコト能ハサルヤ必セリ而シテ社會主義ノ實行シ難キハ屢ニ再三述ヘタルカ如キナリ。

第三ニ「マルサス」ニ反對スル者ハ曰ク脳髓及ヒ神經系ノ發達スルニ隨ヒ人類ノ

生育力ハ減退スルモノナルカ故ニ開化ノ進歩スルト共ニ人口ノ増殖ハ次第其力ヲ減スヘシ現今ニ於テモ下層社會ベ兒女ニ富ムニ非スホト是ビ「クレー」「スベンサー」等ノ唱フル所ナリ。今日上流社會ニ比較的兒女ノ少キハ主トシテ晚婚多キト他ニ快樂ヲ取ルノ方法少カラサムニ因ルモノニシテ佛國ニ於テ人口増殖セサハ主因ハ所謂「兒制」ニ存シ決シテ佛人ノ生殖力衰ヘタルニ非ス要スルニ「クレー」「ベヌンナー」ノ說ノ論據ハ生理學者ノ否認スル所タリ。

第四ニ「マルサス」カ人口ノ增加ヲ幾何的級數トシ食物人增加ヲ算術的級數ト爲セバノ批難スル者少カラスト雖モ「マルサス」ハ單ニ二者增加ノ傾向ヲ示セリニ過キテ「マルサス」カ言ヘルカ如ク人口ハ二十五年毎ニ增加セザレントモ二十五年ニ二倍若クハ三倍以下ノ年數ヲ以テ二倍スルヲ見ルナリ左ニ之カ實例ヲ舉ケン日本

國名 每年增加ノ百分比比例

獨逸 約一・九三 二倍スル年數

英國 ウェールズ 一・二七 約一・二五

經濟學 財政ノ概要 人口論「マルサス」ノ人口論ニ對スル駁論及ヒ之ガ批評

丁抹

一〇八

約六五年

哥西亞

一二二

約五五年

日本

一〇四

約三五〇年

又食物殊ニ穀物カ算術的級數ヲ以テ增加スルヤ否ヤヲ觀ルニ穀物ノ收穫ハ人類ノ知識勤勉等ニ依リテ或ハ急激ニ進ムヨドアルヘタ或ハ長ク増加セナルコトアルヘキヲ以テ數字ヲ以テ其增加ハ割合ヲ表示スルヨリヲ得ナルナリ然レトモ同一ノ土地ニ就テ觀レバ報酬漸減ノ法則ナルモノアリテ收穫ノ增加ハ要スルニ過緩ナトスモ一端ハ畜類ヘ主觀基質ハ否端末人間及々之ヲ以テ逃ブル所アリ以テ之ヲ觀ルニ「マルサス」の人口論ハ多少事實ニ背キ極端ニ馳スルノ點アリト雖モ大體ニ於テ人真理ト謂ハサルヘカラス現今ノ社會ニ於テモ人口ハ直接に食物ノミノ爲タニ制限セラレサルモ間接ニ影響ヲ受タルコト少カラス生計容易ナレバ人口ノ増殖多ク生計困難ナレハ増加ノ割合減少スルモノトス例へハ千八百七十年七十二年ノ戰爭ニ際シ獨逸ニ於テ之生産及ヒ結

婚ノ數減少シ戰後產業勃興スルヤ兩者共ニ其數著シク增加セリト云フ廣袤狭小ニシテ人口既ニ稠密ナル邦國ニ於テハ特ニ人口ト食物トノ關係ニ注意スルコトヲ要シ我國ノ如キ亦其一タリ今ヤ我國ニ於テハ米ノ產出約四千萬石ニ過キス歲少シク凶歉ナルヤ忽チ外國米ノ輸入ヲ見ルナリ然レトモ佛國ノ如ク二兒制ヲ以テ人口ノ蕃殖ヲ妨クヘキニ非斯苟モ一國ノ獨立ヲ維持シ殊ニ列國ノ間ニ介在シテ一大國タルノ位置ヲ占メントスルトキハ人口實ニ之カ基礎タリ之ヲ古來ノ歴史ニ微スルニ往昔ハ少數ノ人口ヲ以テ世界ニ雄飛スルコトヲ得タリ例へハ「ペルシャ」戦ヒテ大勝ヲ得タル「アゼンス」ノ人口ハ十五萬、ヴェヌス」カ地中海上ニ其勢力ヲ振セタル事キ其人口百三十萬、和闐カ最モ隆盛ノ域ニ達シタルトキ其人口二百二十萬ニ過キス彼ノ「オトガヌタス」カ四海ヲ併呑シテ羅馬帝國ヲ建設スルヤ其人口ハ五千萬乃至六千萬タリシキ云フ第十九世紀ノ初ニ當リテモ一千萬乃至三千萬ノ人口ヲ有スルモノハ優ニ大國ノ班三列セリ然ルニ今日北米合衆國ハ七千萬、露西亞ハ一億以上ノ人口ヲ有シ一統計家ノ計算ニ據レハ千九百八十年ニハ英植民地ヲ含ム米二國ノ人口ハ各四五億ニ上

カ露西亞ノ人口ハ三億キ達スヘシト即チ第二十世紀ノ終ニテ於テハ少名トモ一億ノ人口ヲ有スルニ非少レハ大國ノ列王加ハルヲ得ナルカリ而シテ日本ノ人口ハ毎年一分ツツ增加スピモノトセハ千九百八十年ニ一億ニ達スルヲ得ルナリ然ビトモ此人口ハ何レノ地ニ於テ收容スヘキヤ食物ノ供給ハ何様ノ地ニ仰クキヤ是レ今日ニ於テ既ニ考究スヘキ大問題ニシテ若シ夫レ之ヲ等開キ付シ並テ之カ圖フ爲サヌルニ於テハ他年必ス牴ヲ喰ムノ悔不猶ヘキナリ雖ヘ起イテ骨肉ノ譲ハヘバアサリ譲カズ大難モ解ヒテソシムヘ人口ハ十正萬人ニシテ又ハ六百二十萬人ニシテ古來ノ蠶虫ニ堪入ヘニ吾昔ヘ少寳入人口也以テ世界ニ識者ニ於國ニ聞ニキ恐ラニ一大國ニシテ島嶼又古入ニシテハイ半ヘ人口實ニシテ基盤ニ二星拂マ起テ人口ハ蕃盛ニ謀セハナニ我大説ヨリ國人獨立ニ勝姓ニ經ニシテ蟲也ニ蟲也ニ因蟲也ニシテ遂セ小國米ハ雖入ニ蟲也ニ然ハイチ國ニ寔入ヘニシテ要也蟲國ハ城子奉其一也ニ今マ蟲國ニ貧乏ハ米ハ產出也四十萬糞糞養小ニシテ人口四ニ增密セハ洪國ニ致テハ特ニ人口利食神也ニ國弱ニ當經
經濟學終

(二十七年度講義錄)

經濟學

法學士 山崎覺次郎 講述

法政大學發行

東京大學發行

東京大學圖書出版社

東京大學圖書出版社

東京大學圖書出版社

東京大學圖書出版社

經濟學目次

必取資本、獨立式の發展.....六三

第一章 緒論
第一節 資本の必要性.....六〇

第二章 經濟學ノ定義
第一節 經濟學ナル名稱.....五二

第二節 定義.....五三

第三節 定義ノ說明.....五四

第三章 經濟學ノ分科
第一節 純正經濟學.....五八

第二節 應用經濟學.....五九

第三節 財政學.....六〇

第四章 財貨ノ生產
第一節 產生之意義、種類及要素.....一五五

第二節 產生之意義、種類及要素.....一五六

第三節 產生之意義、種類及要素.....一五六

第四節 產生之意義、種類及要素.....一五六

| | |
|--------------------|-----|
| 第一編 第一章 生產之種類 | 二二六 |
| 第一節 土生產ノ要素 | 二二七 |
| 第二節 植物自然 | 二二八 |
| 第三節 植物自然ノ意義及ヒ自然ノ狀況 | 二二九 |
| 第四節 資報漸減ノ法則 | 二三〇 |
| 第二編 第二章 勞動 | 二三一 |
| 第一節 勞動之念慮 | 三七 |
| 第二節 勞動ノ能力 | 三九 |
| 第三節 勞動ノ分配及ヒ協同 | 四一 |
| 第四章 資本 | 五二 |
| 第一節 資本ノ意義及ヒ種類 | 五一 |
| 第二節 生產資本ノ必要 | 六〇 |
| 第三節 生產資本ノ成立及ヒ増殖 | 六二 |

總覽圖書目次

| | |
|------------------------|-----|
| 第四節 機械 | 一六四 |
| 第五章 企業 | 一六九 |
| 第一節 企業ノ意義及ヒ必要 | 一六九 |
| 第二節 單獨企業及ヒ共同企業 | 一七五 |
| 第六章 土地資本ノ私有制度 | 一八一 |
| 第一節 所有權 | 一八〇 |
| 第二節 相續權 | 一八九 |
| 第三編 財貨ノ交易 | 一九〇 |
| 第一章 交易及ヒ價值ノ意義 | 一九〇 |
| 第一節 價值ノ意義 | 一九五 |
| 第二章 價格 | 一九九 |
| 第一節 需要及供給 | 一九九 |
| 第二節 貨物元其數量ヲ增加シ能ハル財貨ノ價格 | 二〇二 |

經濟學目次

四

| | |
|---------------------------------|-----|
| 第三節 生產費ヲ增加セシムア其數量ヲ增加シ得ヘキ財貨ノ價格 | 一〇四 |
| 第四節 生產費ヲ增加スルニ非サレハ數量ヲ增加シ能ナル財貨ノ價格 | 一〇七 |
| 第三章 貨幣 | |
| 第一節 貨幣ノ起源 | 一一一 |
| 第二節 貨幣ノ職務及ヒ此職務ヲ盡スニ必要ナル條件 | 一一四 |
| 第三節 貨幣制度 | 一一〇 |
| 第四節 貨幣ノ價格 | 一二五 |
| 第五節 「クレシナム」ノ法則 | 一三五 |
| 第六節 單本位制兩本位制ノ沿革及ヒ其得失 | 一四〇 |
| 第四章 紙幣及ヒ銀行券 | |
| 第一節 不換紙幣 | 一四八 |
| 第二節 兑換紙幣 | 一五一 |
| 第三節 銀行券 | 一五三 |
| 第五章 信用取引及ヒ信用機關 | |
| 第一節 信用取引ノ主義及ヒ其種類 | 一六四 |
| 第二節 手形 | 一六六 |
| 第三節 銀行 | 一七一 |
| 第四節 信用ノ利害 | 一八六 |
| 第六章 商業 | |
| 第一節 商業ノ意義及ヒ其利益 | 一九〇 |
| 第二節 內國商業ニ對スル政策 | 一九一 |
| 第三節 外國貿易及ヒ外國貿易ニ對スル政策 | 一九三 |
| 第七章 交通機關 | |
| 第一節 運輸機關 | 一九九 |
| 第二節 通信機關 | 二〇六 |

第四編 財貨ノ分配

第一章 分配ノ意義及ヒ所得ノ種類 二〇八

第一節 分配ノ意義 二〇八

第二節 所得ノ種類 二〇八

第二章 地代 二五二

第一節 地代ノ意義及ヒ其原理 二五二

第二節 地代ノ原理ニ關スル反對ノ學說及ヒ事實 二五五

第三章 貨銀 二七八

第一節 貨銀ノ意義 二七八

第二節 貨銀ノ分類 二九八

第三節 貨銀ノ高低スル理由 二一二

第四節 職業ノ種類ニ依リ貨銀ニ差異アル所以 二二九

第五節 貨銀ナ労働費トノ差異 二三一

第四章 利息 二三一

第五編 財貨ノ消費 二四八

第一章 消費ノ意義及ヒ種類 二四八

第一節 消費ノ意義 二四八

第二章 消費と生産トノ關係 二五三

第一節 消費と生産 二五三

第二節 過剩生產 二五六

第三節 欲望 二五六

第四節 欲望 二五六

第五節 欲望 二五六

第六節 欲望 二五六

第七節 欲望 二五六

第八節 欲望 二五六

第九節 欲望 二五六

第十節 欲望 二五六

第十一節 欲望 二五六

第十二節 欲望 二五六

第三章 人口論

第二節 「マルクスノ人口論」二六三

第三節 「マルクスノ人口論ニ對スル駁論及ヒ之カ批評」二六八

| | |
|---------------|----|
| 第一編 諸種消費ノ意趣 | 四八 |
| 第一章 消費ノ意趣及ニ鑑賞 | 四八 |
| 第二編 楽賞ノ意趣 | 四八 |
| 第三編 愉樂ノ意趣 | 四六 |
| 第四編 愉樂ノ意趣 | 四二 |
| 第五編 愉樂ノ意趣 | 四〇 |
| 第六編 愉樂ノ意趣 | 三八 |
| 第七編 愉樂ノ意趣 | 三四 |
| 第八編 愉樂ノ意趣 | 三一 |

經濟學目次總

予ハ單ニ用收權ニ就キテ說カントス或ニ國學本義トニ由マニ體育監生ノ財
用益權ハ他人ニ屬シ反復シタル使用權堪フヘキ物ヲ使用シ之ヨリ生スル果實
ヲ收メ己ノ所有ト爲スノ權利ナリ是ハ明カニ用益權(Jus fractus)ナル字ノ指示
スル所ナリ是ヲ以テ觀レハ用益權ナバモノハ所有權中ノ最モ利得ヲ與フルノ
元素即チ使用權(Jus utendi)及ヒ收益權(Jus frumenti)ヲ舉ケテ他人ニ分割スルモノニ
シテ餘ス所ハ唯リ處分權(Jus abutendi)ニ過キス故ニ羅馬人ハ此所有權ヲ呼ブニ
虛有權(Nudum dominium, Nuda proprietatis)ナル名ヲ以テシ所有權ノ生スル利益ヨリ
剝奪セラレタルヲ示シタリ用益權主ハ使用權ニ基キ物ノ利益ヲ增加スル附屬
之權利例ヘ不土地ニ於テヘ地役ト共ニ物ヲ使用シ又收實權ニ基キ物ヨリ生ス
ル果實ヲ收取シタ己ノ所有ト爲スノ權利果實トハ物ノ特定シタル性質或ハ
合意上ノ結果ヨリ生スル定期的生産物ヲ指スモノニシテ定期ニ收獲スルヨ
トヲ得ス而シテ偶然發生タル生産物ベ之ノ以テ果實ト爲スス隨テ用益權主
ニ屬セシテ所有主ニ屬セサヘ不金錢ニ試文ヘ且益權ノ目的ノ發達者也
本來用益權為動產不動產ヲ別々ス有體物上ニ設定セラルルヨトヲ得バ其性

賃トシテ物體ヲ保存シ之ヨリ生スル利益ヲ享有スルニ止マルヲ以テ消費ニ因
ラテ始シテ利益ヲ得ヘシ物件例ヘハ金錢ニ於テハ用益權ノ目的ト爲ルヲ許サ
ナリシカ「オーニギ・スチニ」ミ帶ノ時ニ及ヒテ單用益權ナムモノヲ認メ準用益權主
ム此等物件ノ所有主ト爲リ之ヲ消費スルヲ得唯其終結ノ日同一種類ノ物件ヲ
所有主ニ返還スルヲ以テ足レリト決シタリ渠實イヘ時ヘ特異者失火對質地役ヘ
用益權ハ元來一定シタル人ノ爲メニ設定セムモノナルヲ以テ其性質シテ讓
與スベカラチルモノナリ然レトモ用益權主ハ有償或ハ無償ヲ以テ其權利ノ實
行ヲ讓與スルヲ得之ヲ讓受ケタル者ハ用益權ヨリ生スル一切ノ利益ヲ收ムル
コトヲ得ルモ用益權ニ於テハ其名義者ノ身上ニ結合サルルヲ以テ用益權主ノ
死スルニ迨ヒ用益權モ亦終局ヲ告クルモノナリ渠ヤモ助人ニ長體大ニシケン
用益權ノ目的ハ物件ノ享有即チ之ヨリ生スル利益ヲ收ムルニ在ルヲ以テ用益
權主ハ物件ヲ預貰スヘカラス又其用方ヲ變スヘカラス收入ヲ以テ支辨スヘキ
租賦及ヒ修繕ノ費用ハ其負擔ニ屬シ用益權終了ノ際物ヲ返却セサルヘカラス
當初ニ於テハ用益權主ノ義務ハ此ノ如ク列舉スルモノニ止マリ虛有權主ノ利

害ハ關知スル所ニ非ス自ラ手ヲ下シテ物件ヲ頽敗セサルトキハ己ノ怠惰ニ因
リテ生スルモ其損害ニ任せサリシカ後世ニ及ヒ虛有權主ヲ保護スルノ目的ヲ
以テブレトールハ更ニ用益權主カ物件ノ享有ニ入ルニ先チ或手續ノ履行ヲ爲
ササルヘカラサルコトヲ命シタリ此手續ハ用益權主カ保證人ヲ立テ善良ナ
ル家父ノ享有*Custrum boni viri arbitratu* 及ヒ用益權終了ノ時物件ノ返還ヲ擔保セ
ジムルニ在リ善良ナル家父ノ享有ナル約束ニ因リ用益權主ハ爾後虛有者ニ對
シ已ノ怠惰ヨリ生スル一切ノ結果ニ關シ責任ヲ負フヲ以テ其享有セル物權ニ
シテ時效ニ罹ル虞アルトキハ之ヲ中斷シ又ハ地役ニシテ不使用ニ因リ消滅ス
ヘキモノアルトキハ之ヲ實行シ又羊群ニ於テ羊ノ死亡スルトキハ之ヲ補充セ
サルヘカラス物件返還ノ約束ハ無用ナルカ如キモ虛有權主ハ用益權終了ニ當
リ訴訟ノ生シタルトキ其所有權ヲ證明スルノ勞ナク直チニ物件返還ヲ請求ス
ルヲ得隨テ訴訟手續ヲ容易ナラシムルノ便アリミテ文書既成ニシテ是等の事項を記載せり

用益權ハ終身的ノ權利ナルヲ以テ用益權主ノ死亡ニ因リテ消滅シ又物件ノ消
滅業權及ヒ一定時間ノ不使用ニ因リ然リ不使用ノ年月裏當初勸産ニ於テ小半

年不動產ニ於テハ二年大ソシカ「ジュスギニア」¹時モハ甲ニハ三年乙ニハ十年又ハ二十年ト爲シタリ。是を以て田地主ノ利益ヲ得セシメンカ爲メ果實ノ一部ヲ收ムルコトヲ許シタリ例へハ牛羊等ニ於テハ其乳ヲ取り田野ニ於テハ野菜果實花等ヲ採取スルヲ得然レトモ其收ムル所ハ使用權主ノ一身或ハ一家ノ用ニ充フルヲ度トシ之ニ超過スルヲ得ス。又申闕處又ハ賦役モハ率其所有權ニ因テ當該使用權其他生居權、奴隸又ハ畜畜ノ使用權並於ケル規則ハ用益權ニ準據セリ。

第五章 「アレトーレ」ニ依リ制定セラレタル物權

第一節 市民法ノ所有權ニ準スヘ半物權

市民法上ノ所有權(Dominium)ハ其適用範圍狹隘ニシテ實際ニ於テ弊害ヲ感セシヨリアレトーレハ更ニ之ニ擬スヘキ物件ヲ制定シ其缺點ヲ補ヒタリ。且皆マニ外國人ハ市民法ノ所有權ヲ得ルコト能ハサリシヨリ若シ外國人ニシテ引

渡ニ因リ物件ヲ得取シタルトキハ法官ハ物件ヲ得タルモノトシ長期时效ニ因リ遂ニ其所有權ヲ得ルコトヲ許シタリ。乎且間又ハ賦役又ハ財貨ヲ貢納(1)州縣ノ土地ハ市民法ノ所有權ノ目的タルコト能ハサリシカ法官ハ之ニ對シ一種ノ所有權ヲ作り又長期时效ニ因リ之ヲ得取スルヲ容シタリ。

(II) 是レ得取者ノ身分ニ關セス又物件ノ性質ニ拘ハラサルモ讓與方法ヨリ來ルモノニシテ市民法ハ之ヲ認メサルヲ以テ讓與ノ效力ヲ生スルコト能ハサルモノナリ而シテアレトーレハ之ヲ保護センカ爲メ得取者ハ名義上ニ於テ物權ノ所有權ヲ得ルコト能ハサルモ實際ニ於ケル效力ヲ保有スルコトト爲シタリ此場合ニ於テバ讓與者ハ市民法上尙ホ所有權ヲ有スルモ讓受者ハ物件ヲ以テ其財產中ニ有スルモノト爲シタリ(*In bonis hadere*)例へハ(引渡ニ因リ賣買式ヲ受クヘキ物ヲ得タルトキ)(2)「アレトーレ」ノ命令(*dicto*)ニ因リ相續ヲ得タルトキ(Bonorum posses)。(3)辨償スルノ資力ナキ債務者ノ資產ヲ賣買ニ依リ得タルトキ(Bonorum venditio, Bonorum empitor)ノ如キ是ナリ。

第二節 永借權及ヒ地上權地役ニ準スヘキ「ブレトール」

(Perpetuum locatio) (永借權制度ノ物權)

二二一〇

一、永借權(Euphytensis) 永借權ハ他人ニ屬スル物ノ上ニ有スル權利ニシテ恰モ用益權ニ於ケル如ク物件ヲ使用シ又其生産スル所ノ果實ヲ收メテ己ノ所有ト為スノ權利ナリ然レトモ其範域ハ用益權ヨリモ廣大ニシテ永借權主ハ己ノ利益ニ必要ナリト認ムルニ從ヒ土地ノ状態ヲ變シ之ヲ修正シ加之其用方ヲモ交易スルコトヲ得永借權ハ唯リ永借權者ノ身上ニ特有カラサルヲ以テ之ヲ相續者ニ傳ヘ又生存者間ニ於テハ何タル名義ヲ問ハス移轉スルコトヲ得然レトモ永借權ノ所有權ニ異ナル點ハ期限ノ到来ニ因リ或ハ永借權主ノ相續者ナクシテ死亡スルトキ及ヒ一定年間ノ年賦ヲ拂ハサルトキハ消滅スルモノトス

二、地上權(Superficies) 地地上權ハ土地上ニ立テル建設物ニ適應セル永借權ニシテ土地所有主ハ地上權ニ依リ甚タ長キ年月間又ハ無期ノ間一種ノ地役ヲ負擔スルモノナリ

第六章 債務(Obligatio)

債権又ハ債務トハ同一事ノ相反セル兩側ヨリ下セル觀察ニシテ若シ債権ノ何タルモノナルカヲ研究シ其原理ヲ通察スルモノナリ此債権又ハ債務ハ所謂對人權ニノナルカラ認知シ其原理ヲ通察スルモノナリ此債権又ハ債務ハ所謂對人權ニシテ上章ニ陳述ジタル物權ナルモノハ常ニ物上ニ於テ有スル權利ナリシカ對人權ハ常ニ人ノ上ニ負ハシムルノ義務ナリトス而シテ羅馬ニ於テハ此權利ヲ觀察スルニ債務ノ一方ヨリシタリ今基ジエスチニアン帝及ヒ「ボーリュス」カ下セシ定義ニ依ルニ債務トハ羅馬ノ民法ニ基キ人ヲシテ強ヒテ或物ヲ返辦セシムルコトヲ得ル所ノ法律上ノ索條ナリ (Obligatio est juris vindicatio quo necessitate asstringitur allicuius solvenda rei secundum nostrae civitatis iura)

此定義ヲ分解スルハ左ノ三箇ノ意味ヲ含ム吾等東洋文化ノ根柢生歴考観察
 (1) 債務(Obligatio)ハ法律上ノ索條(Vindictum)ニシテ尋常索條ニ以必ス兩端ヲ具フ
 ケ如ク此三ハ二箇ノ主體ヲ成スヘキ權利 債務

者間の地位ハ優劣ノ差別ナリトハ他ニ對する多少服從ノ狀態ヲ現ヘシ自然人自由ヲ失ヒ之ニ反シテ他ノ固有ノ人自由以外ニ於て又更ニ特別ナル利益ヲ得取ス此人如ク東縛ヲ受ケタル主體ニ債務者(Debitor)ト名ケ東縛ヲ爲ス所ノ主體ヲ債權者(Creditor)ト名タリ而シテ債權債務兩者ヲ繫連スル索條ハ法律上ノ索條(Vinoulis juris)ニシテ法律ハ訴權及ヒ強制執行ナル制裁ヲ創設シ債權者ハ之ヲ利用スル人便ヲ有ス是レ實ニ法律的義務ハ特徵ニシテ彼ノ單ニ吾人ノ良心モ放任シ之ヌ干犯スルモ絶干カ徳義人他ノ制裁大キ道徳上ノ義務ニ異ナル主點ノ隨一ナリ而シテ羅馬人ノ觀念ニ依レハ義務人主體タル兩者ノ關係ハ固定不動ニシテ當事者一方ノ意思加之雙方ノ協和ニ因リテモ當事者タル人ヲ變更スルコト能ハズ又其目的ヲ改新スルコト能ハズ

(1) 債務ハ目的ハ強ヒテ債務者又シテ債權者ハ爲メニ金錢ヲ以テ評價シ得ヘキ行爲又ハ不作爲ヲ爲シムルニ在リ(alienus solvendae reo)而シテ債權者ハ權利ノ目的タル物ト直接關係ヲ生セス又物權ニ於ケル如ク追及優先等ノ特別ナル地位ヲ享有セス債務者ノ資產ハ總テノ義務ニ對シ共同ノ擔保ヲ成スモノナリ

是ヲ以テ債務ハ又人權ノ稱號ヲ以テ呼ハレ物權ノ字ニ對立セラル
 (1) 債務ハ國ノ法律ニ循據スルニ非サレハ發生スルコト能ハサルコト明瞭ニシテ此規則ハ殆ドジヌチニアンノ之ヲ明言スルヲ待タス即チ一國法律ノ認定サル所權利ノ存在スルコトナシ然ニ文書イニ鑄シ市貿易ヘ貢税又ハ自燃難甚債務ハ(2)其起源ヲ市民法ニ取レルカ又ハ普通民法ニ取レルカニ從ヒ(1)或ハ之カ制裁タル訴權ノ源泉ヲ市民法ニ汲ムカ又ハ法官法ノ源泉ニ汲ムカニ從ヒ(3)或ハ法律ノ制裁ヲ有スルカ又ハ有セサルカニ從ヒ(4)或ハ其契約ヨリ生スルカ又ハ犯罪ヨリ生スルカニ從ヒ之ヲ數種ニ類別ス
 (1) 債務ニシテ其起源ヲ市民法又ハ通民法ニ取レルアリ甲ハ古昔時代ヨリ羅馬市ノ法律カ之ヲ認メ唯リ市民ニノミ應用スヘキ特別ナル法律ノ一部ヲ成スモノニシテ此債務ハ其形式的ナルト狹隘ナルト又嚴密ナルトノ性質ヲ以テ其起源ヲ表徵スルモノナリ例ヘハ銅片及ヒ秤ヲ用ヒ儀式的ノ方法(Per acta et libram)ニ依リ結ヒタル金錢ノ貸借(Nexum)或儀式ニ從ヒ定タル言句ヲ用ヒテ債權者債務者ノ應答ヲ依リ成ル口頭契約(Verborum obligatio, spousio)及ヒ羅馬市民カ出納

帳簿上記入セルヨリ成ル書上契約(Litteratum obligatio)ノ如シ
通民法ノ債務トハ羅馬人民カ他ノ進歩シタル人民ト交通スルニ及セ其中ニ應用セラシタル習慣ヲ採用シタルモノニシテ内外人ノ別ナク之ヲ用フルヲ得其性質トシテ單ニ自然ノ通理ニ基キ煩雜ナル外形ヲ要セス例へハ賣買貸借組合ノ如ク債權ノ大部分ヲ含蓄スルモノナリ

(二) 債務ニシテ之カ制裁タル訴權ノ市民法ニ其源泉ヲ汲メルカ又ハ法官法ニシテ市民法ハ獨リ古昔時代ヨリ認タル債務ノ外或通民法ノ債務ヲ認メテ訴權ヲ付與セシモ尙ホ不完備ノ點アリシヲ以テ法官殊ニ「ペレト吉ル」ハ之ヲ補ハシカ為メ自ラ訴權ヲ創立シテ之ニ制裁ヲ與ヘタルニ在リムニシテ

(三) 債務ニシテ制裁ヲ有スルト然ラサルニ從ヒ市民法ノ債務又ハ自然債務ト為ス此兩者ハ等シタル法律上ノ義務ニシテ自然債務ト雖モ決シテ道徳上ノ道義ト混淆スヘカラス唯何レノ法律ニ基礎ヲ取ルヲ分タス甲者ハ訴權ヲ有シ乙者ハ之ナキモノヲ謂フ人爲體を處セシムニシテ

(四) 債務ノ源泉カ契約ニ在ルカ又ハ犯罪ニ在ルカニ從ヒ立タル類別ニシテ或條件ニ依リ形成サレタル意思ノ合同ハ契約トシテ義務ヲ生セシムルモノナリ又不法行爲ニ因リ他人ニ損害ヲ被ラシメタル場合ニ於テハ不法行爲ヲ犯シタル者ハ之ヨリ生スル結果ヲ補修セサルヘカラス然レトモ此契約及ヒ犯罪ノ外ニ正當ナル事故ニシテ更ニ合意ノ存セサルアリ或ハ不法行爲ニシテ法律ノ列舉セル犯罪ニ該當セアルモノアリ法學者ハ其等シク債務ノ源泉タルヘキヲ認定シ甲ノ行爲ヲ以テ契約ヲ擬シ之ヲ準契約(Obligatio quasi ex contractu)ト為シ乙ヲ以テ犯罪ニ擬シ(Obligatio quasi ed delicto)ト為シ共ニ之ニ對シ訴權ヲ認許セリ

第七章 契約 (Contractus)

契約ハ必ス合意ヲ察セシムルモノニシテ畢竟契約ハ合意ノ特別ナル一ノ形式ニ過キス而シテ合意トハ法律關係ヲ生セシムルノ目的ヲ以テ當事者間ニ爲シタル協和ナリ此當事者カ其通意思ノ發表ヨリシテ生スル協和ハ羅馬法ニ於テ之ヲ呼ヒテ「バクトム」(Pactum)又「パタシオ」(Pactio)ト謂ヒ一致(Pactus)ノ字ニ其源ヲ

波ミタリ或ハ又之ヲ指スニ「コンヴェンシオ」(Conventio)ノ字ヲ以テスルハ其ニ(Clavis)來ル(Venire)ノ字ヲ合セタルモノナリ此等ノ字ヲ以テ知ラルル如ク合意ハ當事者ノ自由ナル希望ニ從ヒテ生スルモノニシテ私法上其應用セラルベキ地域ハ甚タ澀大ニシテ親族權、物權ニ於テ屢々法律行為ヲ形成スル基礎ト爲ルモ合意ノ最モ普ク適用セラレ又無數ノ形體ヲ取ルハ債務ノ部ニ於テナリトスルハ實ニ大多數ノ場合ニ於テハ債務ノ起源ト爲リ又其消滅ヲ招クハ是レ合意ノ結果ナレハナリ

近世法律ノ原則トシテハ其目的ノ如何ヲ問ハス又其發表セラルル方法ノ何タ

ルヲ分タス當事者ニ於テ意思合同スルトキハ合意ハ直チニ形成セラレ其效力ヲ生スルモノトス例へハ債務ヲ創造スルノ合意ニ於テハ債權者ト爲ルヘキ者ハ債務者ト爲ルヘキ者カ義務ヲ負フコトヲ承諾シ又債務者ハ債權者ト爲ルヘキ者ニ對シ其權利ニ屬東セラルコトヲ承諾セシトキハ債務ハ即チ成立セラレタルモノナリ然レトモ羅馬法ニ於テ合意的債務ニ關シ取レル規則ハ大ニ之ニ異ナリ單純ナル當事者ノ意思ノ協和ハ羅馬人ノ之ヲ呼ヒテ空虛合意(Pactum medium)ト爲スモノニシテ即チ一ノ訴權ナキ合意ニ過キス故ニ若シ合意ヲシテ債務ニ法律上ノ效力ヲ有セシメントセハ他ニ有形的事實ノ之ニ附加セラルルコトヲ必要トス此規則ハ羅馬法ノ形式主義ヨリ起レルモノニシテ終始一貫シテ採レル原則ナリ而シテ數百年ノ間多少ノ緩和ヲ加ヘタルモ「ジユスチニアヌ皇帝」時ニ至リテモ仍ホ循守セラレタリ蓋シ古代ノ法律ニ從ヘハ當事者意思ニシテ有效ナル結果ヲ生セントセハ必ス同時ニ一定ノ儀式ヲ實行セサルヘカラス例ヘハ古昔ノ金錢貸借(Nexum)ニ於テハ「マンシバシオ」ノ式ヲ籍リ秤衡及ヒ銅片ヲ用ヒ借主ハ嚴ニ一定ノ言辭ヲ唱ヘテ返済スルコトヲ約束セサルヘカラサリシカ如シ然レトモ此煩雜不便ナル方法ハ十二銅版法ヲ去ル遠キ以前ニ於テ既ニ放棄セラレタルモ仍ホ形式主義ハ市民法ノ基礎ヲ成シ合意ハ一定シタル言辭(Verba)ノ明言又ハ帳簿(Litterae)上ノ記入又ハ物ノ交付ヲ以テ伴ハルルニ非サレハ成立スルコト能ハス而シテ市民法ハ終ニ單ニ承諾(Consensu)ヲ以テ成立スヘキ或種ノ契約ヲ認メ遂ニ四種ノ契約ヲ成セリ此ノ如ク市民法ノ範域ハ狹小ニシテ所謂市民法ノ契約ナルモノハ其數制限セラレ社會ノ關係頻繁ト爲ルニ及

ヒ其需用ヲ充タスコト能ハス故ニ法律ノ發達スルニ隨ヒ法官及ヒ皇帝ハ從來市民法ノ認メサリシ契約ヲ容レ之ニ附スルニ訴權ヲ以テシタルモノ名稱上之ヲ區別シテ「パクタ」(Pacta)ト呼ヒ法官ノ制裁ヲ附シタルモノヲ「レトーハ・パクタ」(Pacta pretoria)ト謂セ皇帝ノ制裁ヲ附シタルモノヲ法律パクタ」(Pacta legitima)ト謂ヘリ

第八章 契約ニ必要ナル要素

契約ニ必要ナル條件ニ三アリ曰ク當事者ノ承諾曰ク當事者ノ契約能力曰ク一定ノ目的是ナリ

第一節 承諾

承諾ハ當事者雙方ノ意思カ協和セルニ由リ成ルモノニシテ債務者ハ一定シタル供給ヲ爲スコトヲ約シ債權者ハ之ニ對シ了承スルニ在リ此兩意思ノ存在セルトキハ即チ承諾ヲ形成スルモノニシテ其發表ノ順序ハ更ニ承諾ノ形成ニ關

係セス羅甸語ニ於テ承諾(Consensus)ナル字ハ「感情ヲ共ニスル」(Cum sentire)ナル字組成サルルヲ觀ルモ明カニ上ノ意ヲ示ス承諾ハ當事者一方ノ提議(又ハ申込)(Policitatio)ヨリ區別セサルヘカラス此提議(Policitatio)ハ合意ノ案文ニシテ當事者相互ノ承諾ヲ得ルニ及ヒテ始メテ法律關係ヲ生スル所ノ合意ト爲ルモノナリ
此法律關係ハ眞實ニ於テ承諾ノ存スルニ非サレハ生スルヲ得サルモノナリ故ニ瘋狂者醉酊者及ヒ七歳以下ノ小兒ハ承諾ヲ與フルヲ得ヘカラサル自然ノ狀態ニ在ルモノナリ其他戲ニ承諾シタルトキノ如キ共ニ皆正實ナル意思ノ缺亡セルモノナリ此等ノ場合ニ於テハ承諾ノ形成ヲ得サルヤ明カナリ然レトモ或場合ニ於テハ承諾ハ形成セラレタルモ瑕疵ヲ包藏スルコトアリ其原因ヲ歷舉スレハ錯誤、詐欺、暴行強迫ノミニシテ今羅馬法上其合意ノ效力上ニ有セル結果ア検索セン
for tracingヲ實現シ得モ、解説文書ニシテ軍事書類等に於テ
(甲) 錯誤>Error 羅馬法ニ於テ錯誤ハ三箇ノ場合ニ於テハ全然承諾ヲ破壊スルモメトシタツ(一)契約ノ性質上ニ於ケル錯誤例ヘム甲ハ賣買ヲ爲サント欲セシ

ニ乙ハ貸借ヲ爲サント欲セシトキメ如シ(二)契約人目的タル有形的實物ニ於ケル錯誤ノ如シ(三)人ノ有形的實體上ノ錯誤(Error in corpore)是レ實際ニ於テハ稀有ノ事ニシテ單ニ仲介者ヲ經テ承諾ヲ傳致スルトキニノミ生シ得ヘシ例企ハ甲ヨリ金錢ヲ借ラント欲シタルニ乙ヨリ金錢ヲ受取リタルトキノ如シテ雖甚く疑問大有り莫テ其原因ヲ明瞭此三種ノ場合ヲ除クノ外市民法人原則トシテ錯誤ハ承諾ヲ毀害スルコト能ハス故ニ物ノ本然ノ性質甚廣然對手ノ身分等ニ於ケル錯誤ハ更ニ承諾ノ效力ニ向ヒテ影響スルヨトナカリキ然レトモ法學者及ヒ法官の情狀ヲ考察シ此等ノ錯誤在或場合ニ於テハ(善約契約)承諾ヲ破壞スルニ非サルモ尙ホ瑕疵ヲ與フモノトシ特ニ保護ヲ加ヘタルコトアリ

(2)詐欺(Dolus)本來市民法ニ於テハ當事者一方カ權詐ノ方法手段ヲ用ヒテ他方ノ承諾ヲ得タルトキニハ其犠牲ト爲リタル者ハ此等ノ理由ヲ以テ甲者ニ對抗スルヲ得サリシカ共和時代ノ末年頃ヨリ法官ハ之ヲ以テ承諾ヲ不完全ナラシメタルモノナシ其債務實行ノ前後ニ在ルヲ分タス防護ノ路ヲ開キ或ハ義務

雜 訟

○競賣ニ因リテ裁判所カ受領シタル金錢ニ對スル請求權ニ競賣法ニ依リ競賣ヲ爲シタル場合ニ於テ裁判所カ競落代價ヲ受領シタルトキハ裁判所ハ其代價中ヨリ競賣費用ヲ控除シタル殘金ヲ速ニ之ヲ受取ルヘキ者ニ交付スルコトヲ要スルモノトス(競賣法第三三條然ルニ若シ裁判所カ之ヲ交付セサルトキハ之ヲ司法裁判所ニ訴ヘテ其交付ヲ請求スルコトヲ得ヘキ)カ原院名古屋控訴院ハ積極的斷定ヲ與ヘタルニ大審院ハ右ハ公法上ノ手續ニ屬スルモノナルヲ以テ司法裁判所ニ於テ管轄スヘキモノニ非ストセリ其理由ニ曰ク抑國家ハ其機關ノ爲シタル民法上ノ法律行為ニ因リ民法上ノ義務ヲ負擔スルコトナキニ非ナガモ其機關カ公法上ノ手續ヲ執行スルモ之カ爲メニ民法上ノ義務ヲ負擔セナルヲ以テ原則トス例へハ國家ノ機關タル裁判所カ銀行ニ金銀ヲ寄託シ又ハ建築師ニ應舍ノ建築ヲ請負ハシムルトキハ國家ハ此寄託又ハ請負ノ契約ニ因リ民法上ノ權利ヲ有シ義務ヲ負負ヘキハ勿論ナルエ裁判所カ訴訟ヲ裁断シ又

二強制執行ヲ爲スニ當リ當事者ヨリ證據物トシテ金品ヲ受領シ又ハ不動產競賣代金ヲ受領スルトキハ國家ト當事者トノ間ニ公法上ノ關係ヲ生スヘキモ民法上ノ權利關係ヲ生スルモノニ非ストナレハ此場合ニ於テ裁判所ハ國家ノ司法機關トシテ公法上ノ手續ヲ執行スルカ爲ミニ金品ヲ受領シタルモノニシテ民法上ノ法律行為ニ因リテ之ヲ受領シタルニ非サレバナリ而シテ區裁判所カ競賣法ニ從ヒ競賣手續ヲ執行スルハ至ク民事訴訟法ニ從ヒ強制執行ノ手續ヲ執行スルト同シク國家ノ機關トシテ公法上ノ手續ヲ執行スルニ外ナラサレハ區裁判所カ競賣法第三十三條第一項ノ規定ニ從ヒ競落人ヨリ競賣代金ヲ受領スルモ亦タ公法上ノ手續ヲ執行スルニ因ルモノニシテ決シテ競賣申立人ノ委任ニ因リ若クハ債務者又ハ所有者ノ代理人タル資格ヲ以テ之ヲ受領スルモノニ非ス隨テ此等ノ者若クハ此等ノ者ノ債權ハ競賣代金ニ付キ國家ニ對シ民法上ノ債權ヲ有スルモノニ非ス今本訴ノ請求原因タル事實ヲ按スルニ上告人ハ訴外人藤田幸平ニ對シ金七千六圓餘ノ債權ヲ有シ而シテ幸平ハ訴外人村田栄吉ニ對スル工事請負ノ債權ニ付キ豊橋區裁判所カ競賣法ニ從ヒ栄吉所有ノ

不動產ヲ競賣シタル代金ノ配當金二千六百九十四圓餘ノ債權ヲ同區裁判所ニ對シ有スルヲ以テ上告人ハ此債權ヲ差押ヘ且債權取立命令ヲ得テ之ヲ請求スルモ同裁判所ハ其債務ヲ履行セサルヲ以テ本訴ノ請求ヲ爲スト云フニ在リテ本訴ハ畢竟裁判所カ競賣法ノ手續ヲ執行シ競賣代金ヲ受領スルトキハ之ヲ受取ルヘキ者ニ對シテ民法上ノ債務ヲ負擔スルコトヲ主張スルモノニシテ換言セハ國家ノ機關タル裁判所カ競賣法ニ從ヒ競賣手續ヲ執行シ競賣代金ヲ受領スルトキハ國家ハ之カ爲ミニ民法上ノ債務ヲ負擔スルコトヲ以テ根據ト爲ス訴訟タルコト洵ニ明白ナリ然レトモ前段説示スルカ如ク區裁判所カ競賣法ニ從ヒ競賣代金ヲ受領スルモ國家ハ之カ爲ミニ民法上ノ債務ヲ負フモノニ非サレハ本件ハ絕對ニ司法裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノニ非スシテ民事訴訟法ノ所謂無訴權ノ場合ニ該當スルモノト謂ハツル可カラス然ルニ原審カ第一審ト共ニ本件ヲ以テ司法裁判ノ管轄ニ屬スヘキモノト爲シ本案ニ付キ裁判ヲ爲シタルハ失當ナリトス下(大審院明治三十六年(乙)第六百六十三號不動產競賣配定金請求事件明治三十七年五月十一日第一民事部判決)

○外國ニ於テノミ流通スル貨幣及シ證券ニ關スル緊急勅令 政府ハ去ル

十八日二十七日附外國ニ於テノミ流通スル金銀貨紙幣銀行券及ヒ帝國官廳發行ノ證券ノ偽造、變造ニ關スル緊急勅令勅令第百七十七號ヲ公布セラタリ(一)其流通セシムル目的ニ出テタル偽造、變造者ハ重懲役又ハ輕懲役(二)金銀貨以外ノ硬貨ナルトキハ輕懲役又ハ二年以上五年以下ノ重禁錮(第一條)(三)其偽造、變造ニ係ル物ヲ帝國若クハ外國ニ輸入シタル者ハ(二)(二)ノ例ニ同シ(第二條)(四)知情行使及ヒ授受者ハ輕懲役又ハ六月以上五年以下ノ重禁錮五收得後ノ知情行使及ヒ授受者ハ名價三倍以下ノ罰金但二圓以下ニ下ラス(第三條)(六)偽造、變造ノ用ニ供シ又ハ供セシムル目的ヲ以テ器械若クハ原料ヲ製造シ授受シ若クハ準備シ又ハ帝國若クハ外國ニ輸入シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處スルモノトシ(第四條)(七)其他右輕罪ノ未遂ヲ罰スルコト(第五條)(八)監視ニ付スルコト(第六條)九百首免刑第七條(一)沒收第八條等ノ規定ヲ爲セリ本令ノ必要

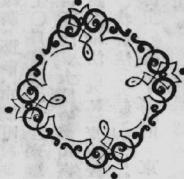
特別法講義錄

月一回發行 第十五號既刊
謝金十五錢 一號ヨリ缺本ナシ

本講義錄ハ我邦ニ於テ未タ其類ヲ見ナル實ニ天下唯一獨歩ノ講義錄ニシテ各講師親シク執筆記述セラル所ニ係ル、其掲載課目及ヒ擔任講師ハ

國學士
ナリトス從來右等ノ特別法ヲ研究スルノ便宜少キヲ以テ勧モスレハ實務ニ當ラル所ノ裁判官又ハ辯護士等ニシテ猶且之ヲ忽ニ付スルノ傾アルハ嘆スヘキ事タリ今若シ小資ヲ搜シ各裁判所、辯護士事務所等ニ於テ本講義錄一部ヲ備附ケラルニ於テハ大ニ参考ニ資スル所ア
ルヲ確信ス

法政大學



明治三十七年六月廿八日印刷 (定價金貳拾錢)

發行者 東京市牛込區牛込北町十番地
萩原敬之

東京市牛込區矢來町三番地
東京市芝區西久保明舟町十一番地

印 刷 所 小宮山信好
金子活版所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行所 指定司法省 法政大學

(電話番町百七十四番)

(明治三十七年六月廿八日十一時三十分至廿九日十二時三十分止)